プラン・ユースグループ実施

ユースから見た日本の性教育の実態調査報告書

－包括的性教育を目指して－

2021 年 6 月

PLAN YOUTH GROUP
for Plan International



02　国際NGOプラン・インターナショナルについて
プラン・ユースグループについて

03　調査背景

06　調査目的

07　方法

09　調査結果

35　考察

42　提言

47　付録

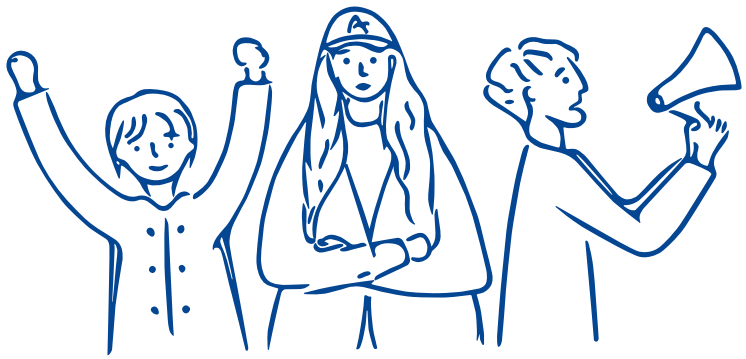
国際NGOプラン・インターナショナルについて

プラン・インターナショナルは、子どもの権利を推進し、貧困や差別のない社会を 実現するために世界70カ国以上で活動する国際NGOです。創立は1937年。長年にわたり、子どもや若者、地域の人々とともに地域開発を進めてきました。すべての子どもたちの権利が守られるよう、とりわけ女の子や女性への支援に力を入れています。市民社会、 政府機関や国際機関と連携しながら、世界を持続的に、前向きに変えていきます。

プラン・ユースグループについて

PLAN YOUTH GROUP
for Plan International

プラン・ユース※グループとは、子どもの貧困、女の子・女性への差別がない公正な社会を実現するために活動する国際 NGO プラン・インターナショナルのユースグループです。プラン・ユースグループは、事務局内へユース視点からの助言を行うアドバイザリーと、ジェンダー課題に対する啓発活動・政策提言活動を行うアドボカシーの 2 つのグループで構成されています。アドボカシーグループでは、2021年度に日本国内の課題として、「女の子・女性に対するオンライン・ハラスメント」に関する調査を通じてその実態の把握と解決へ向けた政策提言を実施しました。



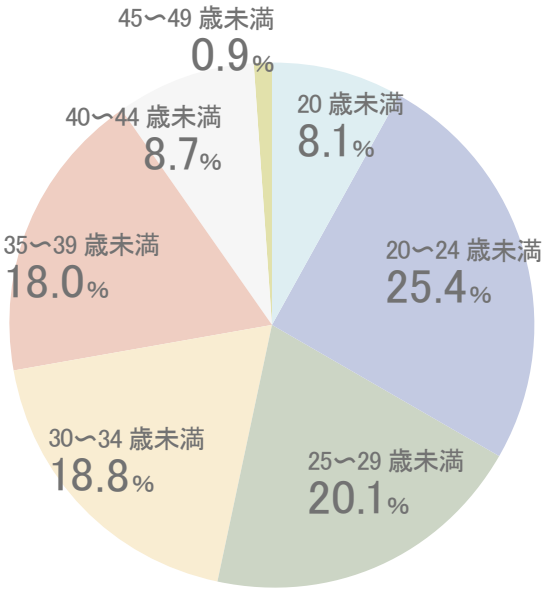
※:「ユース世代」: 15 ～ 24 歳を指す。

調査背景

現代日本の子どもと若者の性を取り巻く社会問題

現代の日本では、子どもと若者の性に関するさまざまな社会問題が山積している。中でも令和元年（2019 年）の人工妊娠中絶件数は、約 15 万 6,000 件を超え、そのうち 24 歳未満の中絶件数は 5 万 2,483 件で、全体の約 3 割を占めている（図 1 参照）。中絶は、避妊手段にアクセスできなかったり、望まない妊娠など様々な要因によって選択される。中絶件数が多いことは、子どもや若者が十分な社会的サポートを得られていないことを意味している。

図 1：年齢別人口妊娠中絶数割合（厚生労働省「令和元年衛生行政報告例の概況 母体保護関係」より筆者作成）



包括的性教育の可能性

このような性の社会問題に対して有効な解決策として、近年注目されているのが「包括的性教育（Comprehensive Sexuality Education）※1」である。「包括的性教育」とは、子どもや若者がセクシュアリティ※2 について前向きに考え、受け入れ、実践することができるように応援する学習プログラムのことである。生殖機能や性感染症に特化して教える日本の従来型の性教育とは異なり、セクシュアリティについて上記以外のことも包括的に扱う。未就学児から、高校生に至るまでカリキュラムによって段階的に学んでいく。包括的性教育の特徴と主に取り扱うテーマ（キーコンセプト）の内容※3 は以下の通りである。

※1：ユネスコ「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」明石書店、p3
※2：ユネスコ「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」p.32 によると、「セクシュアリティは、身体、感情的な愛着と愛、セックス、ジェンダー、ジェンダーアイデンティティ、性的指向、性的親密さ、快楽と生殖についての理解と、これらの関係性を含む、人間であることの中核として理解される可能性がある。セクシュアリティは複雑で、生涯にわたって進化する生物学的、社会的、心理的、精神的、宗教的、政治的、法的、歴史的、倫理的、文化的な側面が含まれる」とあり、本報告書はこの定義を採用する。
※3：ユネスコ「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」明石書店、p28-31,p71

包括的性教育の特徴

- 科学的に正確であること
- 徐々に発展すること
- 年齢・成長に即していること
- カリキュラムベースであること
- 包括的であること
- 人権的アプローチに基づいていること
- ジェンダー平等を基盤にしていること
- 文化的関係と状況に適応させること
- 変化をもたらすこと
- 健康的な選択のためにライフスキルを発達させること

キーコンセプト

1. 人間関係
2. 価値観・人権・文化・セクシュアリティ
3. ジェンダーの理解
4. 暴力と安全確保
5. 健康とウェルビーイング（幸福）のためのスキル
6. 人間のからだと発達
7. セクシュアリティと性的行動
8. 性と生殖に関する健康

いわゆる「性教育」と聞いて日本で一般的に思い浮かべるような、妊娠、避妊、性感染症といった内容（キーコンセプト 6、8 の一部）だけではなく、人間の尊厳や他人を尊重することについて包括的に学ぶ内容となっている。また、カリキュラムにあるすべての内容が人権を重視し、かつ、科学を根拠にしたものであることも注目に値する。

また、包括的性教育については評価研究もされており、その効果が立証されている。ユネスコによるエビデンスレビュー 2008[※4] によると、包括的性教育を実施した事例のうち、初めての性交を遅らせたケースは 23 件、早めたケースは 0 件だった。また、コンドームの使用を増加させたケースは 23 件、減少させたケースは 0 件だった。その他の検証項目においても、全ての項目で包括的性教育が子どもや若者に対して良い影響を与えることが確認された。

※4：ユネスコ（2020）「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」明石書店、p250-253

日本の性教育の現状

日本では、上述の包括的性教育はまだ導入されておらず、性教育で扱っている内容も限定的で、子どもや若者はセクシュアリティについて学校で十分に学ぶことができていない。

日本の性教育の課題の最たるものとされるのが、「歯止め規定」だ。2021 年現在の学習指導要領を見ると、小学校 5 年生の理科で「受精に至る過程は取り扱わない」※5、中学校 1 年生の保健体育科で「妊娠や出産が可能となるような成熟が始まるという観点から、受精・妊娠を取り扱うものとし、妊娠の経過は取り扱わない」※6 と書かれている。これは、教師が児童・生徒に性行為について教えることができないことを意味し、これを「歯止め」と表現して「歯止め規定」と言うことが多い。妊娠の経過を教えないと、生徒は「どうしたら妊娠するのか」「コンドームはなぜ使うのか」などを本質的に理解することができない。性行為について教わらないで、私たちユースはいったいどのように自分の身を守る術を身に着けることができるというのだろうか。また、たとえ避妊方法について学んでいても、いつ妊娠するか、中絶をするか選択するなど、自分の体のことを自分で決めることができる権利、いわゆる性と生殖に関する権利については知る機会を与えられていない。

ユースの思いを知るために

ユネスコが 2018 年に改訂した「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」によると、思春期(10 ～ 19 歳)は、「身体的、感情的、社会的にも変化する時期を迎え、多くの若者が自身のセクシュアリティを育み、他者との関係性を築きはじめていくという意味でも、性と生殖に関する健康にかかわる健康的な習慣やライフスタイルを形成するには最適な時期といえる」とある。私たちユースにとって、この時期に包括的性教育を受けることは重要である。

そこで、私たちユースグループは、同世代のユースが実際に性教育についてどのような考えを持っているのかを調査することにした。包括的性教育はまだ新しい概念で、そのニーズについて詳しくは調査されていないからである。もしユースがセクシュアリティについて不安や疑問を持ちつつ、誰に・何を・どのように問えば良いのかが分からないということが調査を通じて明らかにできるのであれば、性教育の改善の方向性を提案できるのではないかと考えたからである。

※5：文部科学省「小学校学習指導要領（平成 29 年告示）」p.107 https://www.mext.go.jp/content/1413522_001.pdf
※6：文部科学省「中学校学習指導要領（平成 29 年告示）」p.129https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf

調査目的

性暴力・性犯罪対策強化のための教育カリキュラムとして「生命（いのち）の安全教育」[※7] が 2021 年度以降に段階的に導入されることが決定した。また性教育への関心は高まってきている[※8]。その中で、性に関することを生殖についてだけではなく、人権やジェンダー、人間関係などを含む幅広い内容について体系的に学ぶ包括的性教育の重要性が指摘されている。包括的性教育は、性教育の改革に必要不可欠な視点である。今回私たちの調査では、現行の性教育に対するユースの不満、「包括的性教育」という用語への印象に着目した。ユース世代の男性と女性を対象にしたアンケート調査を通して現行の性教育のどの点を改善したら良いか、また包括的性教育のどのような面を活かすことをユースが望んでいるのかを明らかにすることを目指した。そして調査結果を通して、省庁に対し、当事者であるユースにとって理想的な性教育となるよう提言することを目的として取り組んだ。

現行の性教育では問題が生じている。
私たちユースグループはユースの声を聞いて、
理想的な性教育の姿を解明しようと考えた。



※7：文部科学省（2020）「性犯罪・性暴力の対策の強化について」 https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index.html
※8：アクロストン（2020）「思春期の性と恋愛 子どもたちの頭の中がこんなことになってるなんて！」など近年複数の書籍が発刊されている。

方法

アンケート調査

調査主体：プラン・ユースグループ

調査方法：LINE リサーチ プラットフォーム利用の調査

調査対象者：全国 15 歳～ 19 歳の男女

有効回答数：1,050 人

調査時期：2021 年 1 月 14 日～ 2021 年 1 月 15 日

ユースメンバーが原案を作成し、LINE リサーチプラットフォームを利用して 15 歳から 19 歳のユース世代を対象にアンケート調査を行った。問題数は 9 問で、うち 7 問は選択肢、2 問は自由回答質問であった。

回答者の属性

今回のインターネット調査に参加した男女は、LINE リサーチプラットフォーム上で、性別が均等に分布するように対象者条件を指定した。本レポートでは「男性」「女性」の二項目に分けて分類、分析している。

表 1：アンケート回答者の内訳（男女別）

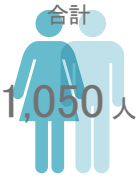
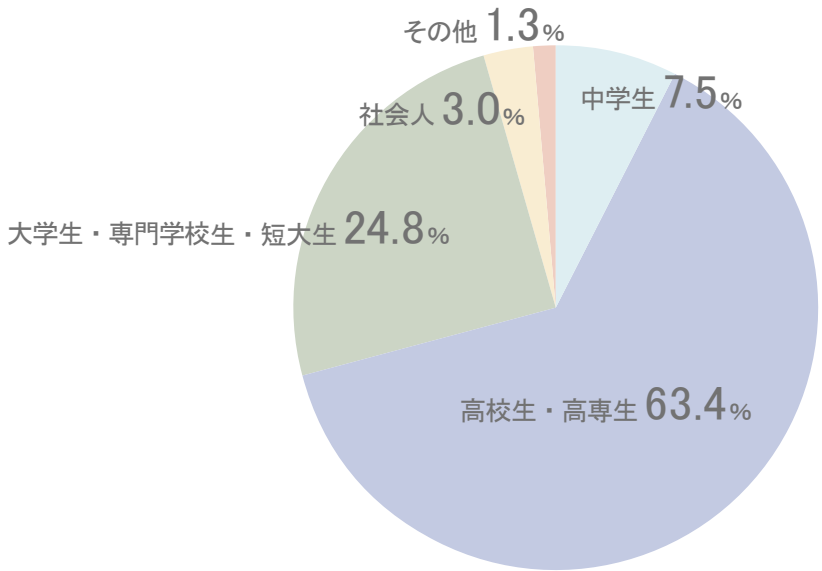
	 525 人	 525 人	合計  1,050 人
15 歳	46 人	55 人	101 人
16 歳	95 人	102 人	197 人
17 歳	96 人	111 人	207 人
18 歳	146 人	131 人	277 人
19 歳	142 人	126 人	268 人

表 2：アンケート回答者の内訳（地域別）

	525 人	525 人	合計 1,050 人
北海道	30 人	26 人	56 人
東北	34 人	25 人	59 人
関東	180 人	210 人	390 人
中部	94 人	97 人	191 人
近畿	94 人	78 人	172 人
中国	26 人	33 人	59 人
四国	17 人	14 人	31 人
九州・沖縄	50 人	42 人	92 人

図 2：アンケート回答者の属性

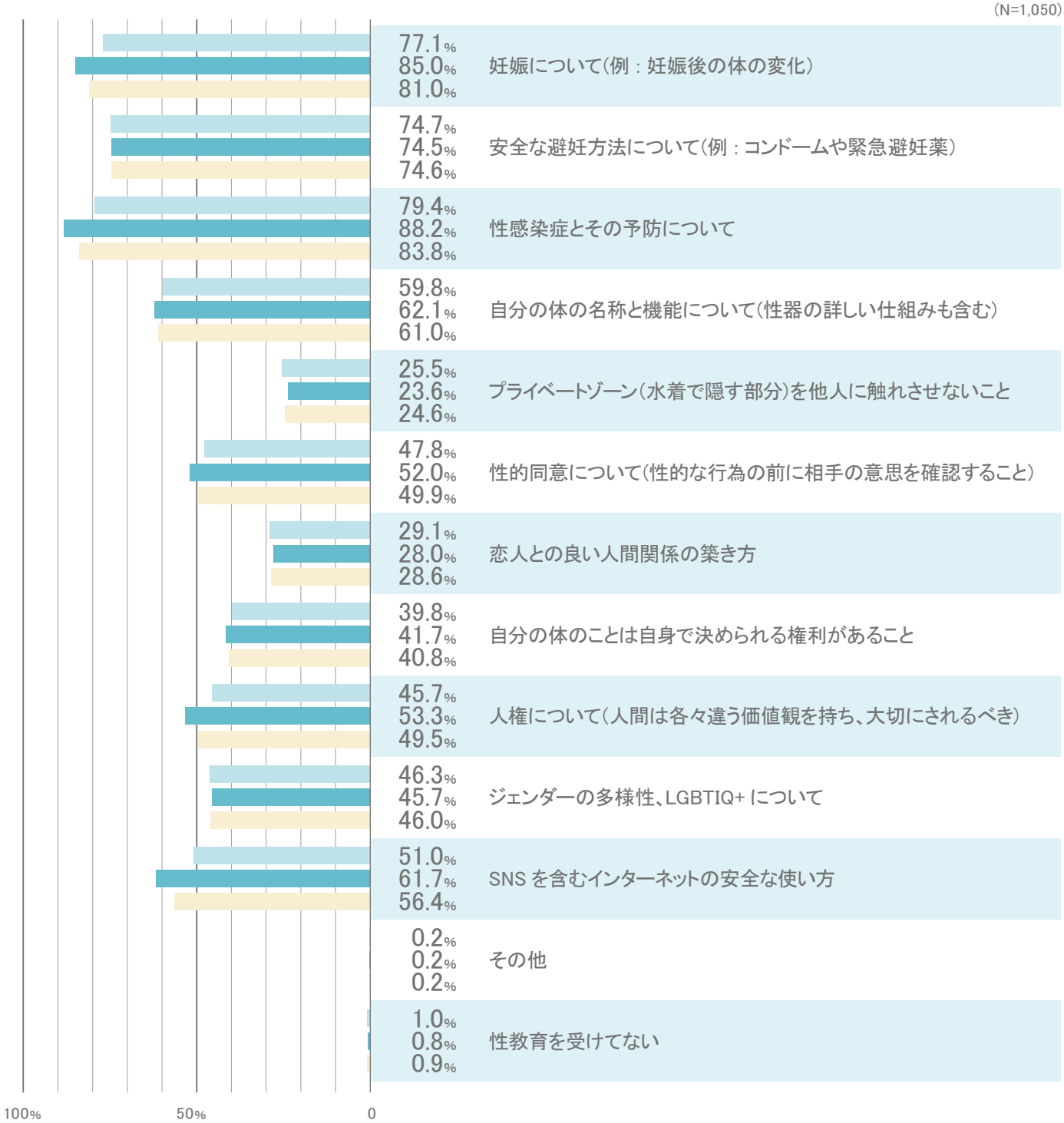


調査結果

設問1：これまで学校でどんな性教育を受けてきましたか？※9

図 3：結果 – 今までの性教育で何を学んだか（複数回答可）　男性　女性　合計

（N=1,050）



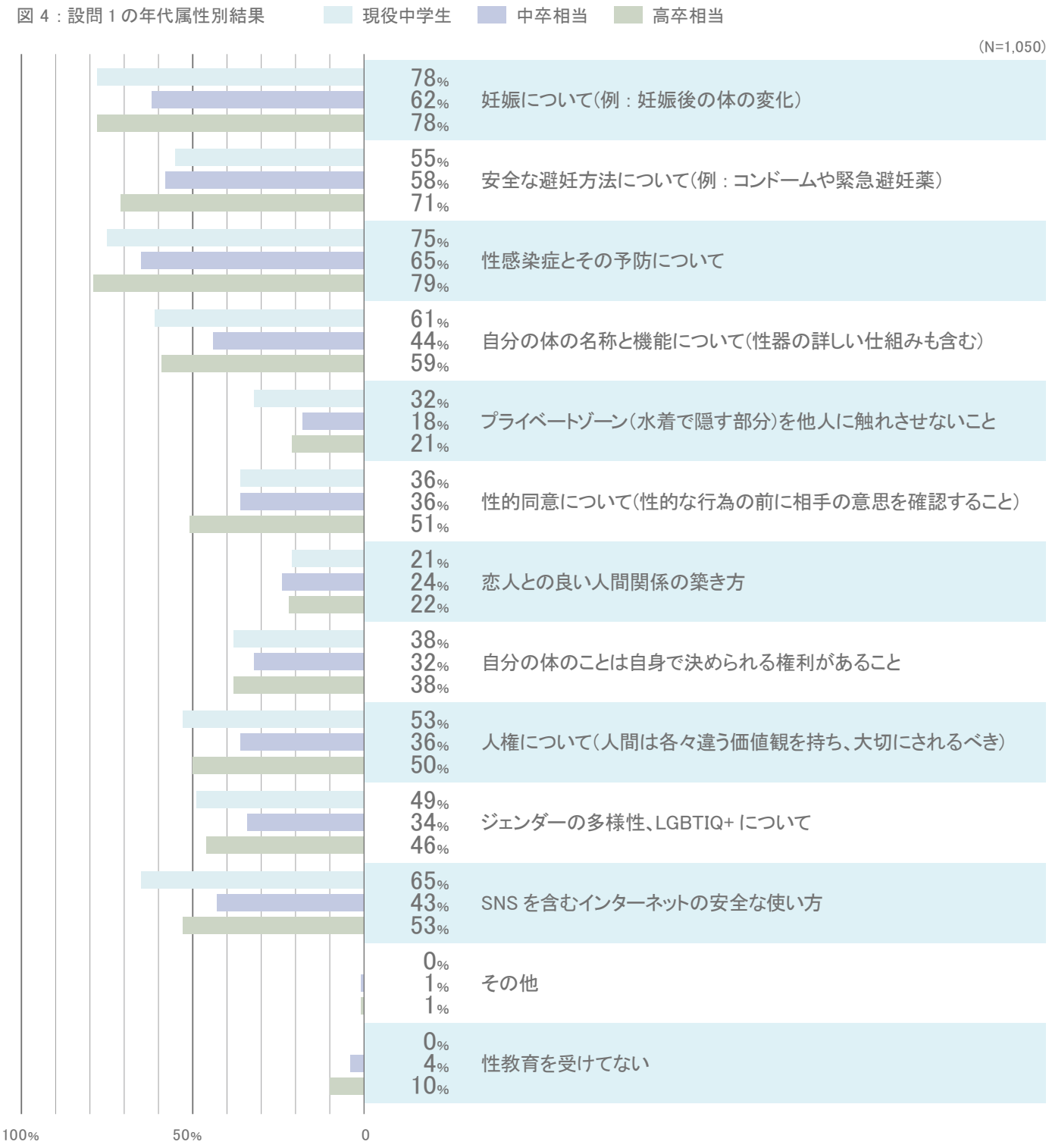
全体的な傾向として、**妊娠や避妊、性感染症を習った項目として挙げた割合が多かった。**また、人権についても習ったと答えた人が男女とも45%を超えた。プライベートゾーン、恋人との良い人間関係の築き方以外の項目も40%前後であった。また、学校での性教育で学習する内容は文部科学省で定められた学習指導要領があるため、男子校や女子校の間の差など例外を除き、男女で大きな差はないと考えられるが、項目によっては、習ったという認識に男女差が

※9：包括的性教育のキーコンセプトでは、ジェンダー、セクシュアリティ、性表現などより広範な性について扱っているが、本設問での選択肢では「ジェンダーの多様性、LGBTIQ+ について」とまとめて設定した。

あることが分かる。特に、**「妊娠について」「人権について」の項目では、女性の方が習ったと答えた割合が約 8 ポイント高い。**男性の方が習ったと答えた割合が高いのは、「安全な避妊方法について」「プライベートゾーン」「恋人との良い人間関係の築き方」「ジェンダーの多様性、LGBTIQ＋について」の 3 項目であったが、いずれも差はわずかである。

これを年代属性別にみると次のような結果となった 。本調査では 15 ～ 19 歳を対象にしているので、15 歳の中学生を「現役中学生」(n=77)、中学生以外の 15 歳以上 17 歳以下および 18 歳の高校生・高専生を「中卒相当」(n=657)、18 歳以上の大学生・専門学校生・短大生、社会人、その他および 19 歳以上を「高卒相当」(n =316)として分類した。18 歳以上の社会人などは、必ずしも高校を卒業しているとは限らないが、ここでは高校卒業以降の年代として扱う。

図 4：設問 1 の年代属性別結果



性教育の内容としてアンケートに挙げた 11 項目中、「妊娠について」「性感染症とその予防について」「自分の体の名称と機能について」「自分の体のことは自身で決められる権利があること」「人権について」「ジェンダーの多様性、LGBTIQ+ について」「SNS を含むインターネットの安全な使い方」の 7 項目において、現役中学生と高卒相当の年代に比べ、中卒相当(主に高校生)で学んだと答えた割合が低い。また、「安全な避妊方法について」「性的同意について」は現役中学生および中卒相当の年代で学んだと答えた割合も低く、高卒相当の年代で学んだと答えた割合が最も高い。一方、「自分の体の名称と機能について」「人権について」「ジェンダーの多様性、LGBTIQ+について」に関しては現役中学生の方が高く、特に「プライベートゾーンについて」「SNS を含むインターネットの安全な使い方」においては、現役中学生が学んだと答えた割合が高卒相当の年代より 10 ポイント以上も高い。これは、近年の教育の内容によって、この 2 項目が以前より普及しているためではないかと推測される。

また、地域別の結果は次のようになった。

表 3：設問 1 の地域別結果

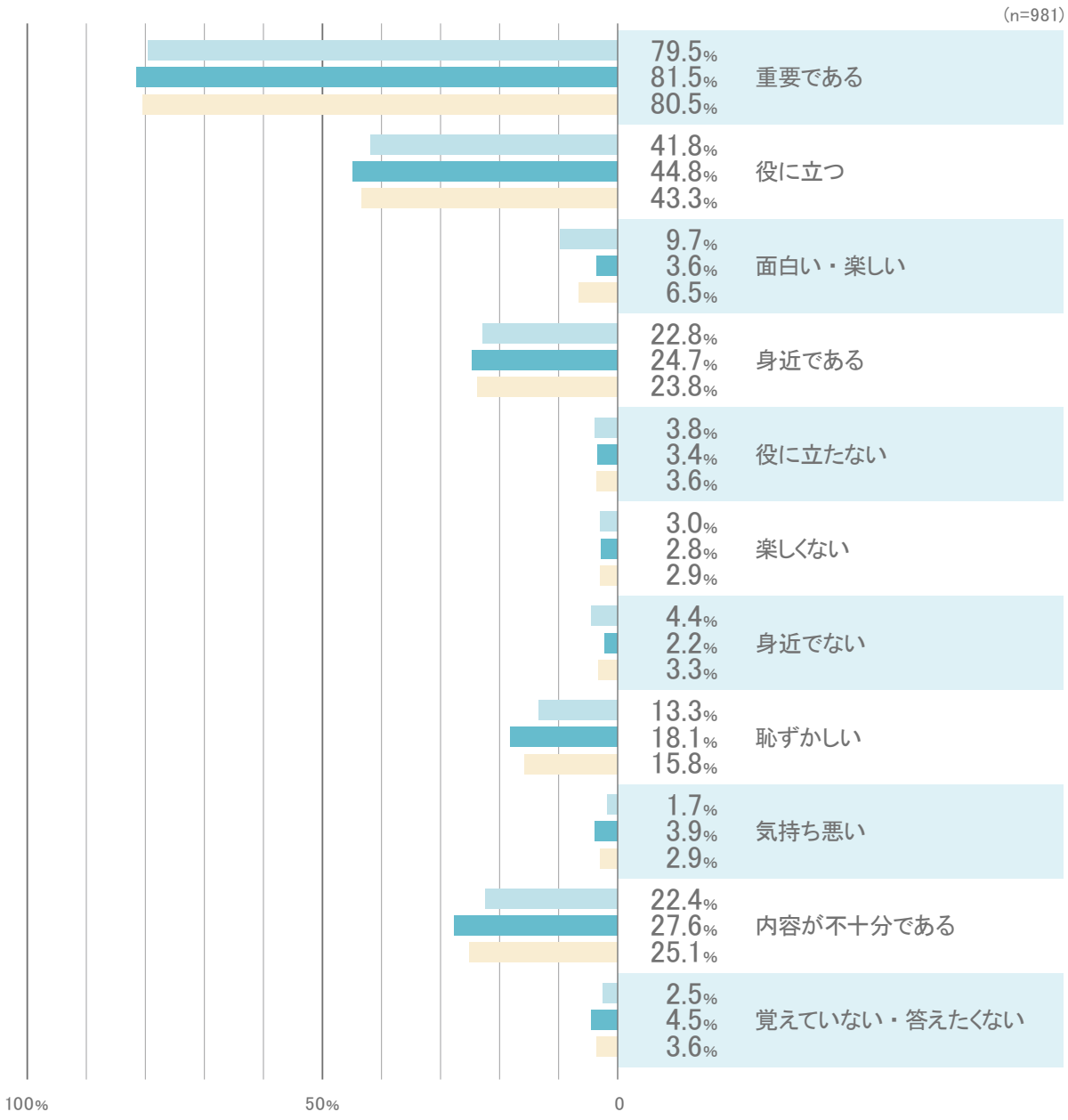
(N=1,050)

項目	上位 1 位	上位 2 位	下位 2 位	下位 1 位
妊娠について(例：妊娠後の体の変化)	北海道 87.5%	東北 86.4%	中部 77.5%	四国 74.2%
安全な避妊方法について(例：コンドームや緊急避妊薬)	東北 84.7%	北海道 78.6%	近畿 71.5%	四国 71.0%
性感染症とその予防について	東北 89.8%	中部 84.8%	近畿 83.1%	四国 71.0%
自分の体の名称と機能について(性器の詳しい仕組みも含む)	東北 69.5%	中国 67.8%	近畿 58.1%	四国 35.5%
プライベートゾーン(水着で隠す部分)を他人に触れさせないこと	東北 40.7%	北海道 26.8%	近畿 22.1%	四国 16.1%
性的同意について(性的な行為の前に相手の意思を確認すること)	東北 66.1%	九州・沖縄 56.5%	近畿 49.4%	四国 38.7%
恋人との良い人間関係の築き方	北海道 35.7%	東北・中国 35.6%	近畿 26.7%	関東 24.1%
自分の体のことは自身で決められる権利があること	中国 50.8%	北海道 46.4%	四国 38.7%	関東 37.2%
人権について(人間は各々違う価値観を持ち、大切にされるべき)	東北 57.6%	九州・沖縄 53.3%	四国 45.2%	北海道 42.9%
ジェンダーの多様性、LGBTIQ+ について	近畿 53.5%	中国 52.5%	東北 40.7%	四国 38.7%
SNS を含むインターネットの安全な使い方	東北 66.1%	九州・沖縄 64.1%	北海道 44.6%	四国 38.7%

全体的に**東北地方で各項目について学んだ人が多く、四国、近畿地方で少ない傾向にある。**例えば、「自分の体の名称と機能について」は、東北地方では69.5%に対し四国地方は35.5%と30ポイント以上の差がある。「プライベートゾーン」についても、東北地方で40.7%、四国地方は16.1%、近畿地方では22.1%と20ポイントほどの違いがある。「性的同意について」は、東北地方で66.1%に対し、四国地方で38.7%、近畿地方で49.4%となっている。「SNSを含むインターネットの安全な使い方」は、東北地方が66.1%に対し、四国地方38.7%、北海道地方44.6%となっている。学んだ人の割合が多い「妊娠について」「性感染症やその予防について」も、東北地方ではそれぞれ86.4%と89.8%に対し、四国地方では74.2%と71.0%と10ポイント以上の差がある。東北地方の回答者は59人、四国地方は31人であり、回答者数は十分とは言えないが、性教育の内容と学習成果について地方によって違いが大きいことが分かった。

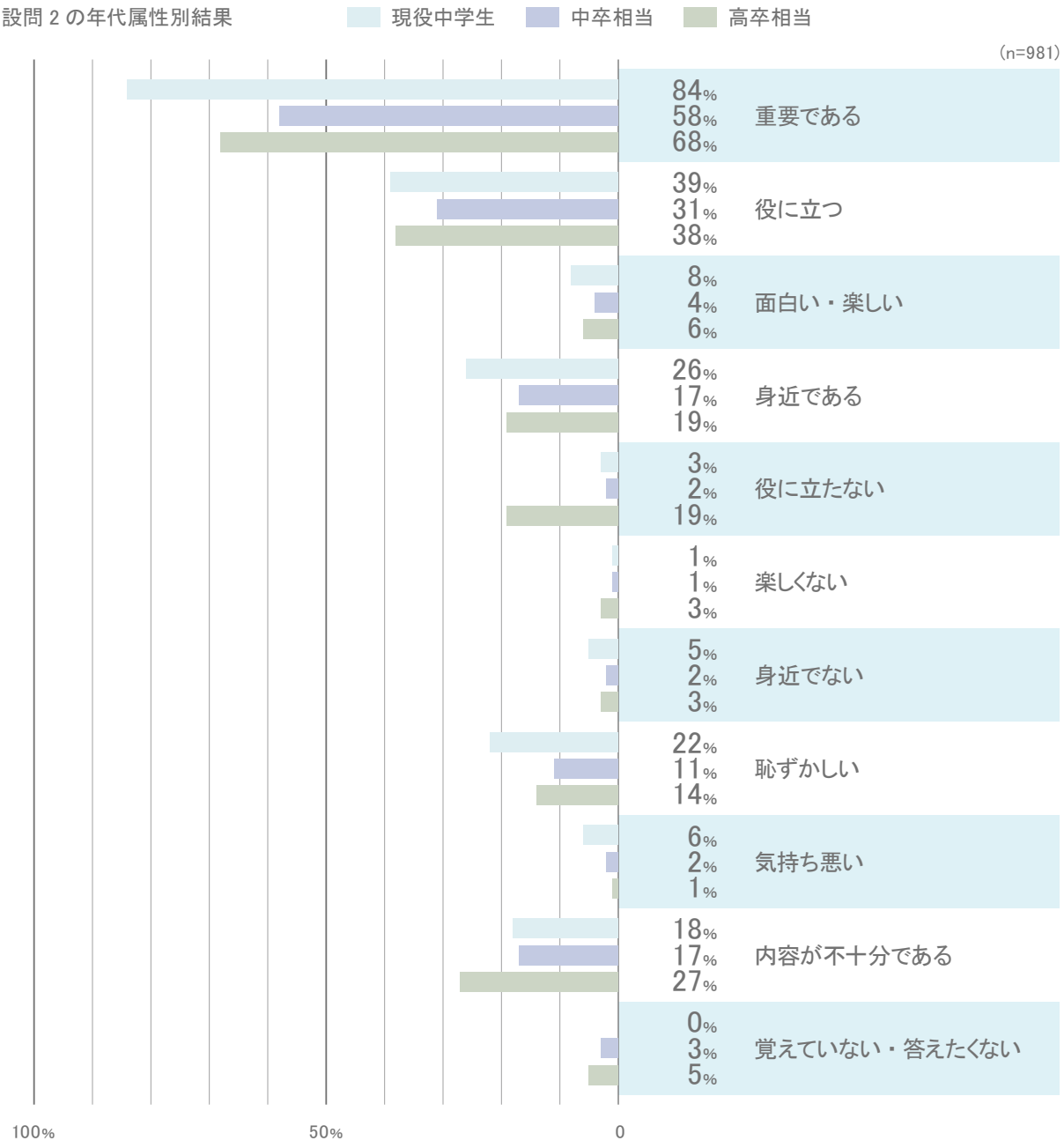
設問 2：これまで受けた性教育にどのような印象を持っていますか？

図 5：結果 – 今までの性教育にどのような印象を持っているか　男性　女性　合計



今までの性教育の印象について「重要である」と答えた人が男女ともに最も高く、約 80%であった。また、「役に立つ」と答えた人も男女ともに40%を超えていた。一方、「内容が不十分」と答えた人は男女ともに20%を超え、「恥ずかしい」と答えた人は男女ともに10%を超えた。男女差については、「重要である」「役に立つ」と肯定的な印象を持っている割合は女性がわずかに多いが、「恥ずかしい」「気持ち悪い」「内容が不十分」という否定的な印象を答えた割合も男性より高い傾向にあった。

図 6：設問 2 の年代属性別結果



現役中学生は「恥ずかしい」「気持ち悪い」といったネガティブな印象の回答割合が他より高い一方、「重要である」「身近である」と感じている割合も高い。また、「重要である」「役に立つ」と答えた割合は中卒相当より高卒相当の年代で高いが、「内容が不十分である」と答えた割合も高卒相当の年代で最も高くなっている。年齢が上がり、他者との接点が多くなるタイミングで性教育の重要性を認識する場面が増えていることが推察される。また、学校で教わった内容と、実際に必要となる知識レベルとの乖離に気づくことも多いのではないかと考えられる。

表 4：設問 2 の地域別結果

（n=981）

項目	上位 1 位	上位 2 位	下位 2 位	下位 1 位
重要である	東北 88.9%	中国 84.6%	近畿 77.3%	北海道 76.5%
役に立つ	東北 51.9%	中部 48.3%	四国 38.5%	北海道 35.3%
面白い・楽しい	中国 13.5%	北海道 9.8%	四国 3.8%	九州・沖縄 2.4%
身近である	北海道 27.5%	中国 26.9%	九州・沖縄 19.0%	四国 11.5%
役に立たない	九州・沖縄 6.0%	関東 4.3%	東北 1.9%	近畿 1.2%
楽しくない	中部 3.9%	四国 3.8%	九州・沖縄 1.2%	北海道 0.0%
身近でない	四国 11.5%	中部 3.9%	近畿 2.5%	九州・沖縄 1.2%
恥ずかしい	近畿 18.4%	九州・沖縄 17.9%	関東 15.1%	北海道 7.8%
気持ち悪い	中国 5.8%	九州・沖縄 4.8%	四国 0.0%	北海道 0.0%
内容が不十分である	四国 34.6%	北海道 33.3%	中部 21.7%	近畿 20.9%

また、地域別に見たところ、今までの性教育について、「重要である」「役に立つ」と答えた人の割合が最も高いのは東北地方でそれぞれ 88.9%、51.9%であり、最も低いのは北海道で 76.5%と 35.3%であった。一方、「面白い・楽しい」「身近である」と答えた人は北海道、中国地方で高く、四国、九州・沖縄地方で低くなっている。

ネガティブな印象については、「役に立たない」と答えた人の割合は九州・沖縄地方で最も高く 6%、東北地方と近畿地方で低くそれぞれ 1.9%、1.2%であった。上でも示したように、東北地方では性教育の満足度が高いことが読み取れる。「内容が不十分である」と答えた人は四国地方、北海道地方で高くそれぞれ 34.6%、33.3%に対し、近畿・中部地方で低く 20.9%、21.7%となった。また、「恥ずかしい」と答えた人の割合はどの地方も 15～18%ほどだが、北海道のみ 7.8%と低くなっている。「気持ち悪い」と答えた人は北海道地方と四国地方と共に 0%で、最も高いのが中国地方で 5.8%となっている。

全体として、**「重要である」「役に立つ」と回答した人が少ない北海道地方は、「内容が不十分である」と答えた人が多く、「役に立つ」「面白い・楽しい」「身近である」と答えた人が少ない四国地方では「身近でない」「内容が不十分である」と回答した人が多かった。**

設問 3：前問でなぜそう回答しましたか？（自由回答 ）

設問 2 の回答別に自由記述を集計し、記述内容によって分類した結果を以下の表に示す。設問 2 で複数回答している者の回答は、記述内容に最も適合すると思われる選択肢に分類した。ただし、複数の選択肢に関して記述していると判断できた場合は、それぞれの回答として分類している。()内の数字は、分類後の自由記述の数であるが、意味を持たない回答（例：特になし、そう思うから）を除いてある。意味を持たない回答と空欄回答を除いた自由回答（有意な自由回答とする）全体の数は 393 であった。

設問 2 で最も回答者の多かった「重要である」（790人）、および「役に立つ」（425人）、「身近である」（233人）というポジティブな選択肢に対する自由記述としては 195 回答（有意な自由回答全体の49.6%）が集まり、**①将来に必要になるため、②自分のため、③相手のため、④学校で習うべきことのため**、と分類できた。①では特に、子どもを産むことに備えて性教育を重要視しているという女性からの回答が多い。②の自分に関わるため、自分の身を守るため、といった回答は男女ともに、性感染症や望まない妊娠の予防、性犯罪について言及されていた。③では性行為やパートナーシップに関する内容が多く、そのほとんどが男性からの回答であった。④の回答は少ないが、正しい知識は学校で学びたいという内容で、性教育を学ぶ場として学校が重視されていることが分かる。

設問 2 で「面白い・楽しい」に対応する自由回答では、「講演してくださったひとが元気だったから」「性に興味津々だから」などがあり、**教える側の影響と自身の興味**が関わっているといえる。

「内容が不十分である」に対する自由回答には、現状の性教育に対する不満や要求が男女ともに数多く寄せられ、その数は 116（有意な自由回答全体の29.5%）であった。設問 2 で「内容が不十分である」と回答した人は 246人いるので、その半数近くが自由回答欄に記述したことになり、内容の不十分さがユースの中に実感として存在していることが分かる。回答としては、**①表面的である・実践的でない、②教育方法が不適切、③生理や避妊、性感染症に関して不十分、④性行為の説明が不十分、⑤ジェンダー、セクシュアリティについて不十分、⑥人権、人間関係について不十分**、⑦その他、と分類できた。生理や避妊、性感染症については現行の性教育のカリキュラムにも含まれるが、それでは内容が不十分で実践的でないとする意見、また教師の教え方や性教育の機会自体が不十分であるとする声、更に現行の性教育で扱っていない内容も教えるよう求める声が多いことが分かった。

また、今まで受けた性教育を「楽しくない」「恥ずかしい」と感じる人の自由回答は、上記の②でもいくつか見られたような、性教育を恥ずかしいものとする風潮やそれに準ずる教師の態度、性についてからかうような周りの雰囲気によるものであると指摘していることが分かる。

表 5：設問 2 に対する自由回答群（分類後）

選択肢	自由記述の分類	自由記述例
重要である・役に立つ・身近である 195	①将来に必要だから 115 46 69	●必ず自分の人生で性を意識する場面が来ると思うから。子どもを作る時に正しい知識が必要だと思うから（18 歳女性・愛知） ●大人になったら経験するかもしれないから（15 歳女性・神奈川） ●正しく産むために必要だと思うから（16 歳女性・富山） ●そのうち必要になることだから（19 歳女性・栃木） ●妊娠などの性教育は人生で関わる可能性があり、重要だと思うから（19 歳男性・神奈川） ●自分も経験するかもしれないから（15 歳男性・大阪） ●将来の家族計画に必要だから（17 歳男性・東京）
	②自分のため 47 20 27	●望まない妊娠やこういう知識を知っていないと自分にもし降りかかった時対処方法が分からないから（17 歳男性・秋田） ●性犯罪等が多くなった今、未然に防ぐためにも必要な知識（16 歳男性・栃木） ●自身の体のことだから（18 歳男性・千葉） ●性感染症は危険だから（16 歳男性・福岡） ●自分の体を大切にする為に必要なことだと思うから（15 歳女性・神奈川） ●将来、性病などにかからないために（19 歳女性・東京） ●望まない妊娠をしないためには大切なことだから（18 歳女性・静岡） ●性犯罪を予防することに繋がりそう（19 歳女性・宮崎）
	③相手のため 23 20 3	●自らが加害者及び被害者にならないようにするために重要だから（19 歳女性・茨城） ●お互いを理解する上で知識は必要なことだから（17 歳女性・東京） ●自分の身勝手な行為で、自分だけでなく、相手の人生も壊しかねないから（19 歳男性・東京） ●自分や自分のパートナーの事だから（17 歳男性・神奈川） ●女性を守るため、身を滅ぼさないため（19 歳男性・神奈川） ●相手との関係を壊さないためにも重要だとおもう（17 歳男性・神奈川）
	④学校で学ぶべき 8 5 3	●正しいことを教える必要があると思うから。ちょっと気まずいと思ったりもするけど、正しい知識を教育現場で教えることは必要なことだと思う（17 歳女性・三重） ●ネットとかでは間違った知識とかが混ざっていたりするが教科書だと正しい情報のみが記載されているから（18 歳男性・大阪） ●学校で学ぶことで嘘の情報を学ばないから（16 歳女性・宮崎） ●学校で習うべきことだと思うから（19 歳女性・京都） ●教えられないとわからないことだから（19 歳男性・兵庫）
	⑤その他 17 11 6	●人間である以上人間の仕組みは知らなければならないから（16 歳男性・愛知） ●性教育や、選択の自由は幼い時から学ぶべき分野である（18 歳女性・大阪） ●今の日本に必要な教育だと思ったから（16 歳男性・千葉） ●先生がとても真剣だったから（15 歳男性・東京） ●少子高齢化が深刻だから（15 歳男性・愛知）

内容が不十分・役に立たない・身近でない　116

①表面である・実践的でない　59（27 / 32）

- 本質的なことや現実に起こり得る危険なことなど実際に役に立ちそうなことは教えてくれなかったから（19 歳女性・静岡）
- 表面的な部分しか教えてくれず、 本当の事は自分でインターネットなどで調べて知識を付けていくしかないから（19 歳女性・岐阜）
- あまりよく分からないから。もう少し分かりやすく、 かつ、 身近に感じられるような方がいい（15 歳女性・長野）
- 具体的に教えないから（19 歳女性・埼玉）
- 内容は不十分である。男女別で授業をすることがあり、これは異性を理解することの真反対の教育ではないのかと考えた。異性への理解は、性教育で最も重要な事の一つではないのか（19 歳男性・大阪）
- もっと直接的な表現をしないと自分のことと思って真摯に受け止められる人は少ないから （18 歳男性・岡山）
- 教科書だけではわからないこともあったから。友達から情報を知ることもありました （18 歳男性・神奈川）
- 実践的ではない。ただ単に正しい事実を教えるだけでは不十分である（19 歳男性・神奈川）

②教育方法が不適切　17（6 / 11）

- 日本は性教育に関してタブー意識が強く、 妊娠や性感染症について世の中の認識が甘いのではと思うことが多々あるから（18 歳女性・栃木）
- 女子だけ集めて月経のことについての授業をするなど、 不適切な教育ではないかと思うことが多かったから（19 歳女性・静岡）
- 中高の間で 1 度短期間でしか学ばなかった。何度も学ばないと忘れてしまうと思う（18 歳女性・千葉）
- 性的な犯罪などの被害は増えているのに、性教育は変わらないから（17 歳女性・岩手）
- 外国と比べて性教育は遅れていると思ったから（16 歳女性・岐阜）
- 教育者の発言が不適切な場合がある（16 歳男性・岩手）
- 学ぶ機会が少ない（19 歳男性・広島）
- 教育は小学校の高学年ごろであまり身近なものという印象がなく、 よく理解できていたと思えなかった。大切なことではあるとおもうけど、内容はむずかしかったと思う。（18 歳女性・宮城）

③生理や性感染症、避妊に関して不十分　12（7 / 5）

- 詳しい避妊方法やアフターピルの使用方法などもっと知っておいたほうがいいことがたくさん有ると思うので（15 歳女性・東京）
- 名前については習ったが、詳しくは学んでいないから。（例えば、コンドームの重要さは学んだが、その使い方は学んでいないなど）（18 歳女性・東京）
- 私は自分が真性包茎であり、放置すると悪臭を放ち、性病などのリスクもあることを高校を卒業してから自分で調べるまで知らなかった。学校での性教育は内容が薄っぺらく時間も短いため殆ど記憶に残っていない。事実コンドーム着用は避妊だけでなく性病予防の意味もあることを知らなかった。（19 歳男性・東京）
- 生理や妊娠について、 女子だけでなく男子もしっかり症状など勉強するべき。無知な男性が多いと思う（17 歳女性・静岡）
- 避妊具の具体的な使い方などは教わらない、女性用のピルの説明も不十分（18 歳男性・東京）
- 性交によって起こる病名しか出さず、その性病の感染の仕方、症状についてまでは知ることができない（18 歳男性・栃木）
- もう少し性感染症に関して詳しく教えた方がいいと思う（19 歳男性・埼玉）
- 避妊もコンドームくらいの話しかしていない。性病については詳しくやったがデンタルダムくらいまでやってもいいと思う（16 歳男性・岐阜）

内容が不十分・役に立たない・身近でない 116	④性行為の説明が不十分 7 2 5	●妊娠に至るまでの過程の説明が不十分だった（18 歳女性・千葉） ●はっきりと性行為というものがどういうものなのかということを教えなければ、望まない妊娠や性感染症を防げないと思ったから。（16 歳男性・北海道） ●全く性行為について大事な事を聞いてなかったりしていたから（18 歳女性・北海道） ●性行為について不十分だと感じたから（19 歳男性・京都） ●小中学校では精子が卵巣の中に入るぐらいしか教えてもらってないので不安です。怖いです。（15 歳女性・東京）
	⑤ジェンダー、セクシュアリティについて不十分 7 1 6	●セクシュアリティに関しては何も触れてこなかったです。私自身アセクシュアルですし、これからの時代は性の多様性が当たり前になっていくべきであると思います。そのためにはまず先生がしっかりと理解し、生徒にきちんと教えるべきであります。未だに LGBTQ+ に偏見があるのが悔しいところです（18 歳女性・大阪） ●LGBTQ への差別が日本では多いように感じるから教育が足りていないように思う（18 歳女性・京都） ●ジェンダーの多様性についての教育が全くなかったため（18 歳女性・千葉） ●LGBT について取り扱わないから（18 歳女性・愛媛） ●性自認は悩みの一つでもあるのでもっと時間を取るべき（16 歳男性・岐阜）
	⑥人権、人間関係について不十分 5 3 2	●他の範囲と違って授業数が少ないし、テストにも性教育に関する問題が出ず、自然と勉強する意識が消え、結局性行為をした相手などを傷つける形が多いので性教育はまだまだ不十分だと感じた。（16 歳男性・千葉） ●表面的なことしか教えられず、自分を大切にすることや具体的なことについて教えられなかったから。（18 歳女性・愛知）
	⑦その他 9 7 2	●痴漢や性犯罪の被害者になった時それにどう対応するか、自分の体の守り方など教えるべきだと思ったから（15 歳女性・鹿児島） ●少子高齢化や、中絶、アフターピルの問題などの社会問題が生まれてくる一因が性教育の不足だと考える。宗教による制限もないのに学校で性教育が行えないことはとても問題視されるべきだと感じる。（19 歳男性・神奈川） ●保健体育の教諭が男性である（15 歳女性・東京） ●縁がないから（19 歳男性・広島）
楽しくない 9 4 5		●性教育の話になると男子学生がニヤニヤしたり笑ったりする雰囲気が常にあった。真面目に学ぶことが妨げられる環境に疑問を持っていたから。（19 歳女性・茨城） ●授業で習う前から男子がよく下ネタとして言っていたので、聞きたくないという悪いイメージをもってしまっているから。（17 歳女性・兵庫） ●重要であるのは分かるが性教育の大切さが伝わってこない内容になっているから。（16 歳男性・広島） ●授業じゃ理解が深まらない。（18 歳男性・東京） ●実感がない。（18 歳男性・兵庫）

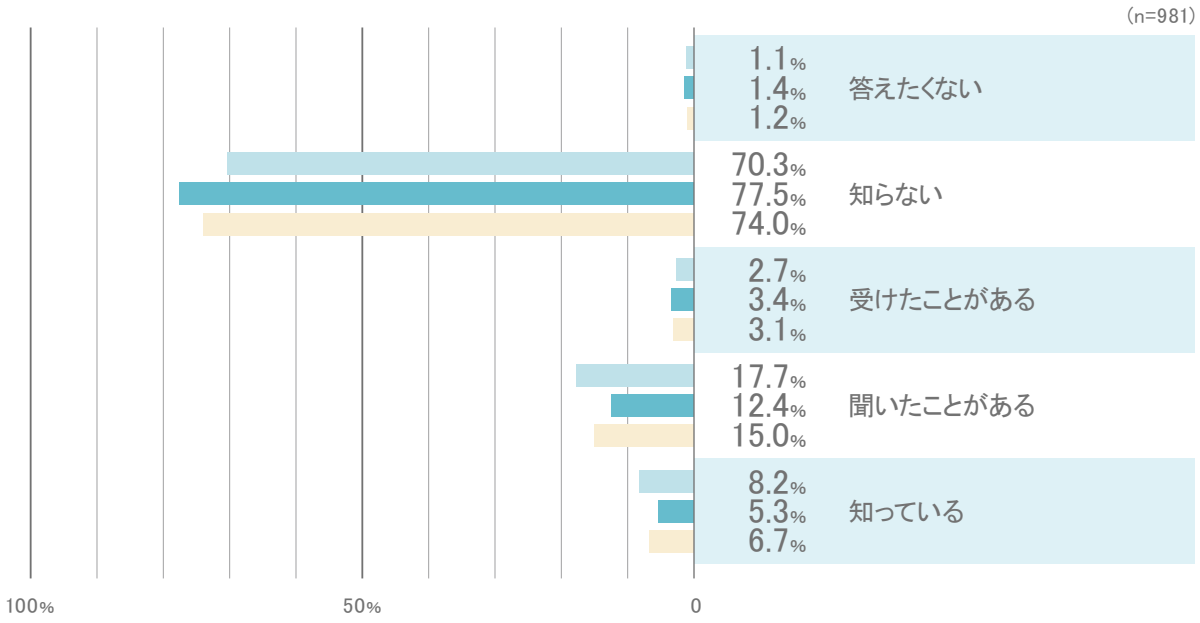
恥ずかしい 23	①タブー意識、恥ずかしいものというイメージ、周囲の雰囲気 11 2 9	●やっぱり性についての話は友達以外と話すのは恥ずかしい。(16 歳男性・岐阜) ●あまり触れてこられずに急に男女別の教室で保健で触れられたので隠さなければならないことという認識になった(19 歳男性・愛知) ●性教育は恥ずかしいというイメージがある。海外ではもっと詳しくしているが日本はあまりしていない気がする。(19 歳女性・三重) ●大切なことなのは理解しているが「恥ずかしいもの」というイメージができてしまっている。(17 歳女性・大阪) ●性教育が日本ではタブーみたいな雰囲気があるから。(15 歳女性・東京) ●人に知られたくないから(16 歳男性・兵庫) ●周りの友達がにやけているから(15 歳女性・滋賀)
	②男女を気にする年齢のため 9 3 6	●義務教育期間やその後の学生期間において、 思春期と重なることもあり性に対して恥じらいを持ってしまうからです。(19 歳男性・香川) ●正しい情報を学べるのはいいことだが、 男女同じ教室で授業を受けるのは少し恥ずかしかったから。(16 歳女性・愛知) ●男女同じ空間で話されるのが少し気まずかったから(15 歳女性・埼玉) ●男子女子合同だから(17 歳女性・新潟) ●お年頃だから(19 歳女性・富山) ●興味深いけど、他人(クラスの友達)と授業として学ぶのは気恥しい(17 歳男性・岡山)
	③教師によるもの 3 2 1	●あまり先生も気恥ずかしさをみせ、その単元をさらっと流しただけで終わらすため。(15歳男性・大阪) ●適当に授業をされた気がしたから。(18 歳女性・高知)
面白い・楽しい 7 6 1		●講演してくださったひとが元気だったから。(16 歳男性・鳥取) ●授業が楽しかったから(18 歳男性・静岡) ●性に興味津々だから(16 歳男性・北海道)

設問 4：「包括的性教育」について知っていますか？

本設問では以下のように包括的性教育を定義し、回答者に示した。

「包括的性教育」とは、性に関することを、いわゆるセックス（性行為）のことだけではなく、人間関係など幅広い内容について学ぶ教育です。包括的性教育の目的は「周りの人も大切にしつつ、自分の権利を知ること。それをもとに、健康や幸せのための選択を自分で決められるようになること」です。自尊心や自信を身につけることにもつながります。セクシュアリティ、人権、お互いが幸せである対人関係、価値観の尊重、暴力（性暴力を含む）の防ぎ方、LGBTIQ＋の人々への偏見や差別をなくすことも教育に含まれます。

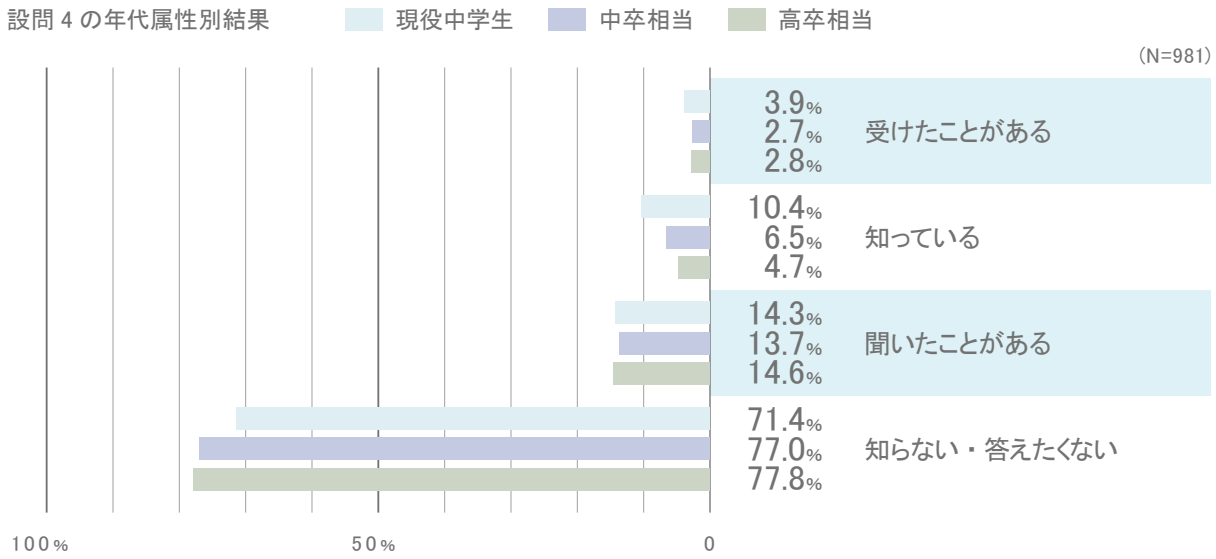
図 7：結果 – 包括的性教育について知っているか　男性　女性　合計



包括的性教育について「知らない」と答えた人が男女ともに70%を超えて最も高く、包括的性教育の認知度の低さが示されている。また、包括的性教育を「知っている」「聞いたことがある」と答えた人の割合はどちらも男性の方が高く、合計すると女性は17.7%に対し男性は25.9%となり、包括的性教育を認知している男性は 4 分の 1 以上であることが分かる。一方、「受けたことがある」と答えた人は男女ともに低く、男性が2.7%、女性が3.4%であった。男性の認知が高い結果となったが、この背景については本調査からは分析できなかった。

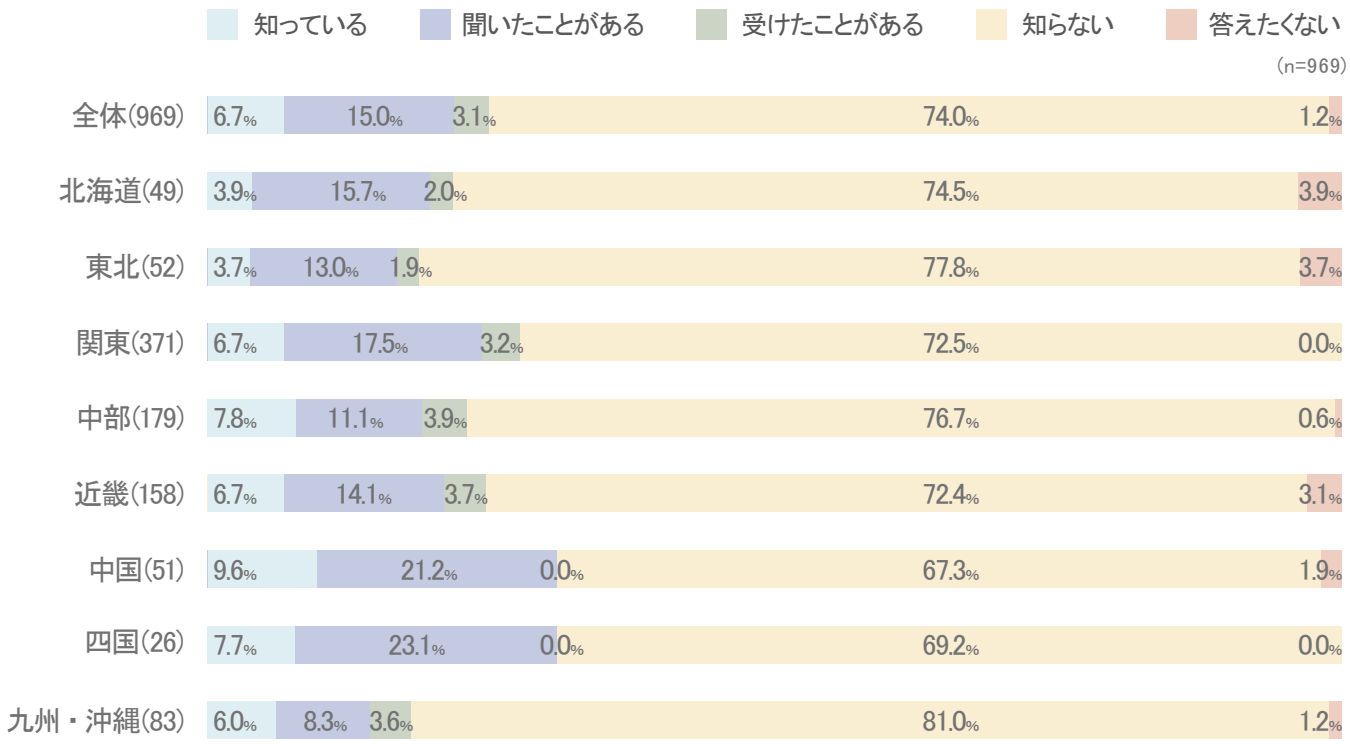
年代属性別に分けると次のようになった。

図 8：設問 4 の年代属性別結果



包括的性教育を「知らない・答えたくない」と回答した割合は中卒以上の年代で 77%以上であるのに対し、現役中学生では71.4%となった。現役中学生は、「受けたことがある」「知っている」と答えた割合が中卒以上と比べて高く、特に「知っている」割合が10.4%と高卒相当の回答割合の 2 倍以上となっている。この結果から、現役中学生（主に 15 歳・中学 3 年生）は今の高校生・大学生に比べて包括的性教育という言葉や概念に触れる機会が多いと言えるのかもしれない。

図 9：設問 4 の地域別結果



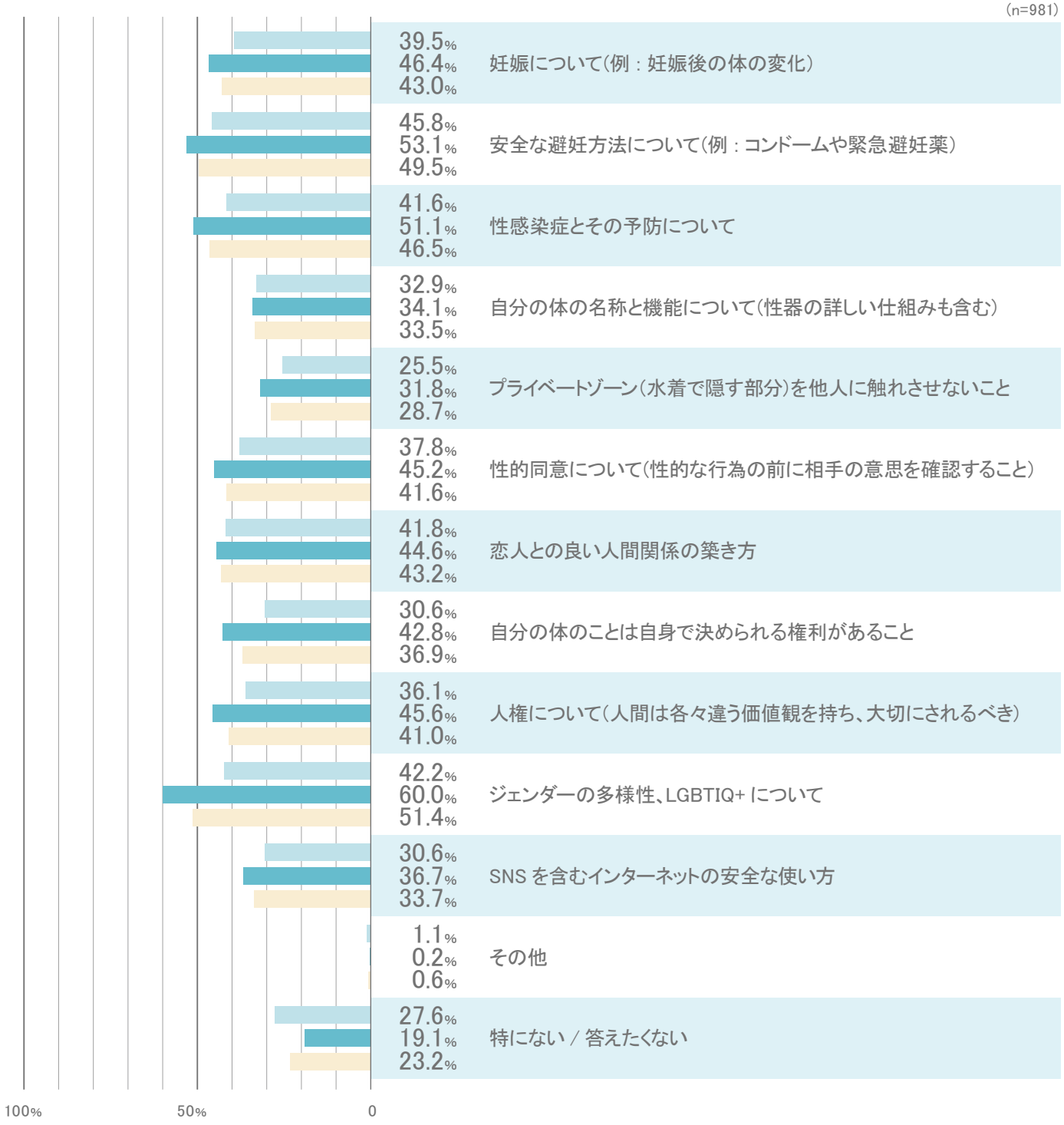
地域別に見たところ、包括的性教育を知っている、聞いたことがある人の割合は中国、四国地方で最も高く30%を超えているが、受けたことがあるのはどちらも 0%であった。一方、中部、近畿地方では知っている、聞いたことがある人の割合の合計は 20%ほどだが、受けたことがある人が他の地域より高く、3.9%、3.7%である。また、前問の結果から、性教育の内容や印象が他の地域より良かった東北地方において、包括的性教育を知っている人の割合が最も低く、知らないと答えた人の割合も比較的多い 77.8%であった。このため、東北地方では「包括的性教育」という名称を用いずに、包括的な性教育を行っている可能性がある※11。

※11：例えば秋田県では、県や各自治体教育委員会が主導し、性教育の普及をすすめるとともに、産婦人科医などによる学校向けの出張授業や教員向けの性教育研修などが行われている。参考：女性研究者支援ネット 大切な思春期ー「性教育講座」を担当して https://www.akita-u.ac.jp/jyoseishien/column/008.html

設問 5：どんなことを学校で学びたいですか？当てはまるものを全て選んでください。※12

図 10：結果 – どんなことを学校で学びたいか（複数回答可）　男性　女性　合計

（n=981）



※12：包括的性教育のキーコンセプトでは、ジェンダー、セクシュアリティ、性表現などより広範な性について扱っているが、本設問での選択肢では「ジェンダーの多様性、LGBTIQ+ について」とまとめて設定した。

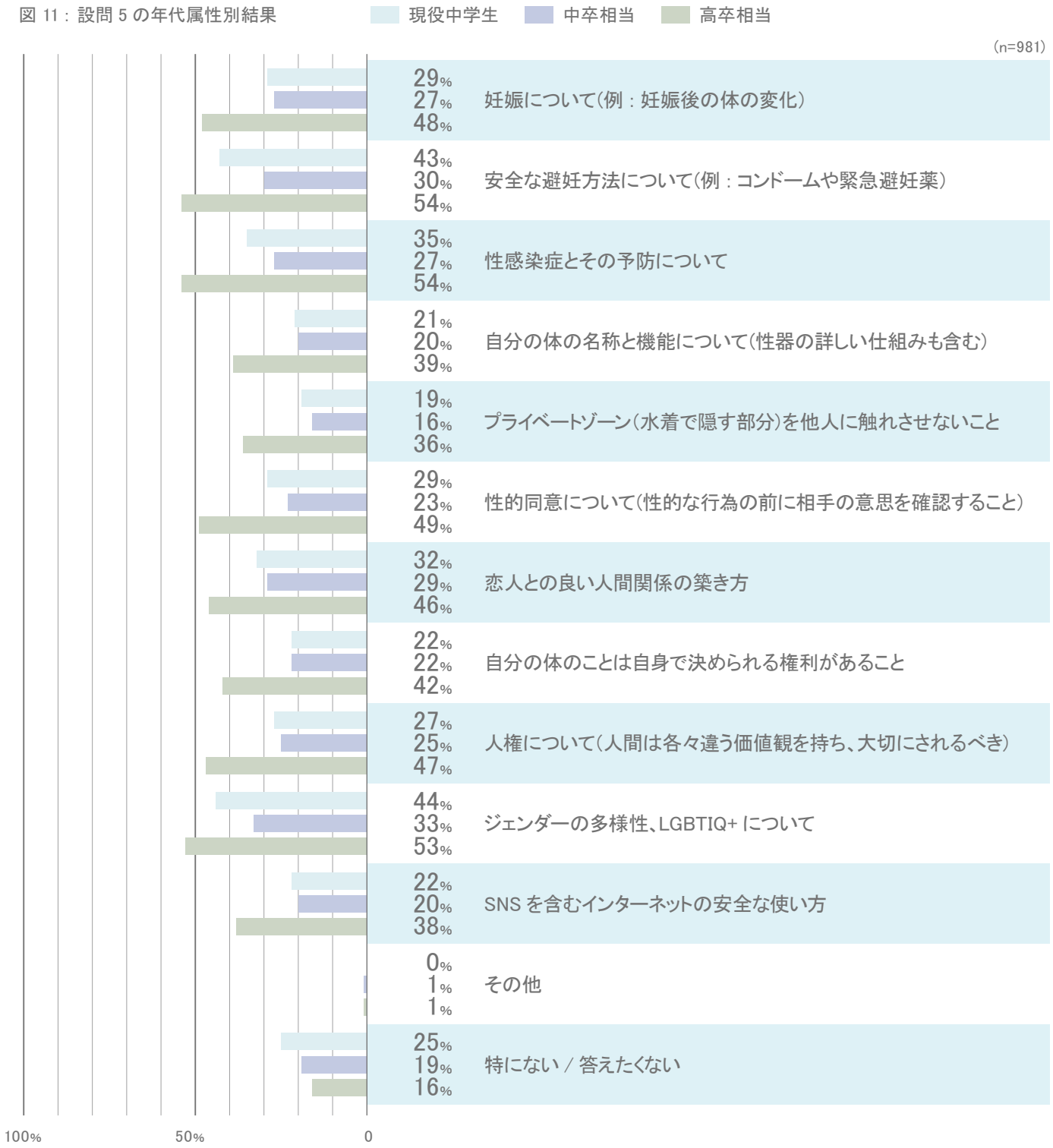
何を学びたいかに対しては、避妊や性感染症などの従来の性教育で特に取り扱われている内容の割合が高かったが、性的同意や恋人との人間関係も30 ～ 40%あった。また、**ほぼすべての項目について女性の方が男性より学びたいと答えた割合が高く、女性の方が包括的性教育のコンテンツを学ぶ必要性を感じている**と推測できる。またジェンダーの多様性は女性の60%が学びたいと回答しており、男性に比べて顕著に高い割合となった。

また、自由回答では以下のような回答が挙げられた。

- 月経などの時の女性の体調不良の度合（知らない男性、および軽い症状の女性がいるため）（17 歳男性・千葉）
- 女性が生理のときに男性はどうすべきか （18 歳男性・兵庫）
- 恋人との良いセックスライフの築き方 （17 歳男性・東京）
- 生理や勃起などの自然現象 （16 歳女性・宮城）
- 中絶について （19 歳男性・神奈川）
- 生理とは何か （18 歳男性・東京）

年代属性別の結果は以下のようになった。

図 11：設問 5 の年代属性別結果



学びたい項目に関しては、年代属性ごとに大きな差が見られた。高卒相当の年代は全ての項目に関して学びたいと答えた割合が最も高い一方で、現役中学生は「安全な避妊方法について」「ジェンダーの多様性、LGBTIQ+ について」以外の項目において20%から30%に留まり、中卒相当の年代に至っては全ての項目で学びたいと答えた割合が最も低い結果となった。より多くの人間関係を持つようになる大学生等が包括的性教育を学ぶ必要性を最も感じている一方で、中学生や高校生は未だその必要性を自分事として認識できていないと推察される。

地域別の結果は以下のとおりである。

表 6：設問 5 の地域別結果

(n=981)

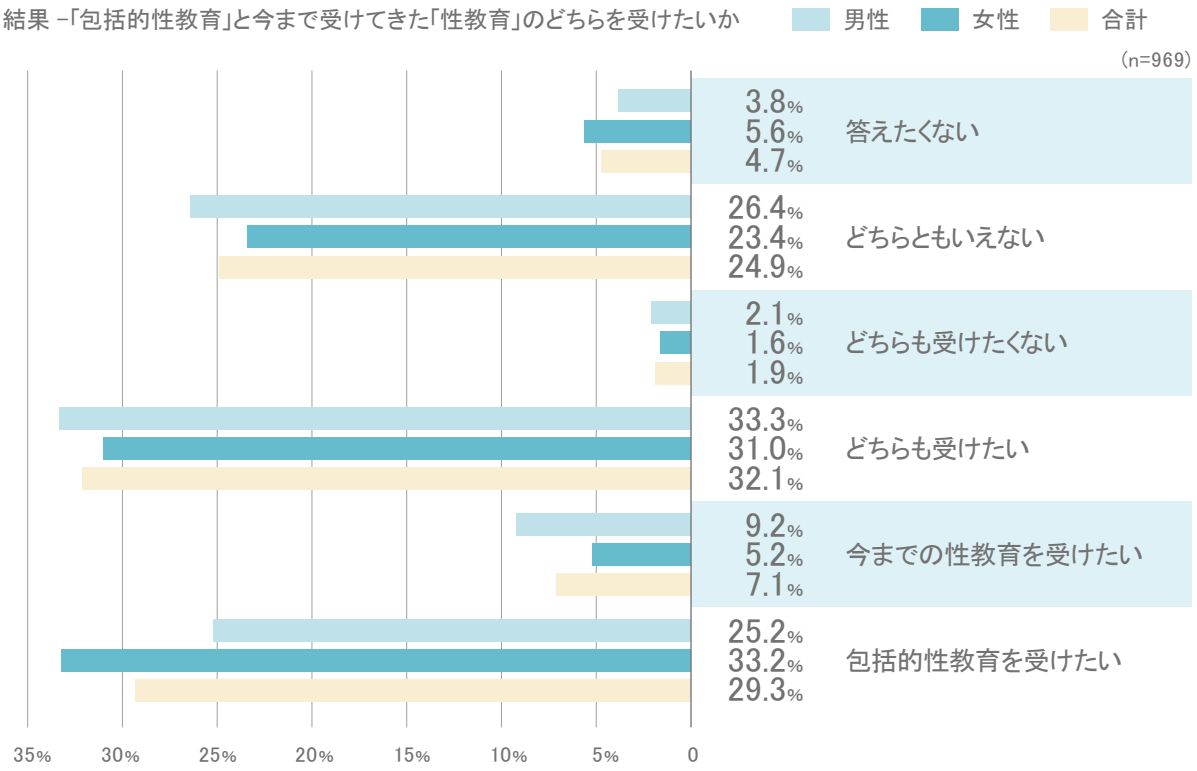
項目	上位 1 位	上位 2 位	下位 2 位	下位 1 位
妊娠について(例：妊娠後の体の変化)	中国 55.8%	東北 51.9%	九州・沖縄 36.9%	北海道 31.4%
安全な避妊方法について(例：コンドームや緊急避妊薬)	中国 61.5%	東北 55.6%	九州・沖縄 45.2%	北海道 37.3%
性感染症とその予防について	東北・中国 51.9%	四国 50.0%	近畿 40.5%	北海道 33.3%
自分の体の名称と機能について(性器の詳しい仕組みも含む)	中国 51.9%	四国 42.3%	近畿 27.0%	北海道 25.5%
プライベートゾーン(水着で隠す部分)を他人に触れさせないこと	中国・四国 38.5%	東北 29.6%	近畿 27.0%	北海道 19.6%
性的同意について(性的な行為の前に相手の意思を確認すること)	中国 57.7%	東北 46.3%	四国 34.6%	近畿 31.9%
恋人との良い人間関係の築き方	中国 63.5%	東北 53.7%	四国 34.6%	北海道 31.4%
自分の体のことは自身で決められる権利があること	中国 53.8%	九州・沖縄 41.7%	東北 33.3%	近畿 32.5%
人権について(人間は各々違う価値観を持ち、大切にされるべき)	中国 51.9%	九州・沖縄 42.9%	四国 34.6%	近畿 36.2%
ジェンダーの多様性、LGBTIQ+ について	近畿 55.6%	中国 53.8%	近畿 48.5%	北海道 47.1%
SNS を含むインターネットの安全な使い方	中国 55.8%	北海道 39.2%	中部 30.6%	近畿 26.4%

性教育の内容への学習意欲は、地域によって大きく差が出た。**中国地方は全ての項目において 50 ～ 60%ほどで他の地域より高い割合を示し、包括的性教育のカバーする内容を学びたいと思う人が多いことが分かった。**一方、**北海道では特に、妊娠、避妊法、性感染症や体、性器の名称などについて学びたいと答えた人の割合は 20 ～ 30%ほどで、他地域と比べると低い。**また、それらに加え、性的同意、自分の体の自己決定権、ジェンダーの多様性や SNS の使い方等については、近畿地方で学びたいと答える人の割合が低かった。

例えば、設問 1 で四国地方は性感染症、自分の体の名称と機能、プライベートゾーンについて習ったと答えた割合が最も低かった(それぞれ 71.0%、35.5%、16.1%)が、設問 5 ではそれぞれ50.0%、42.3%、38.5%となり、学びたいと答える割合が他地域より高くなった。一方、近畿地方も設問 1 の各項目において習ったと答えた割合が他地域と比べて低かった。近畿地方は、設問 5 においても各項目を学びたい人の割合は他地域より低い。設問 1 の結果との相関は地域によって異なる。

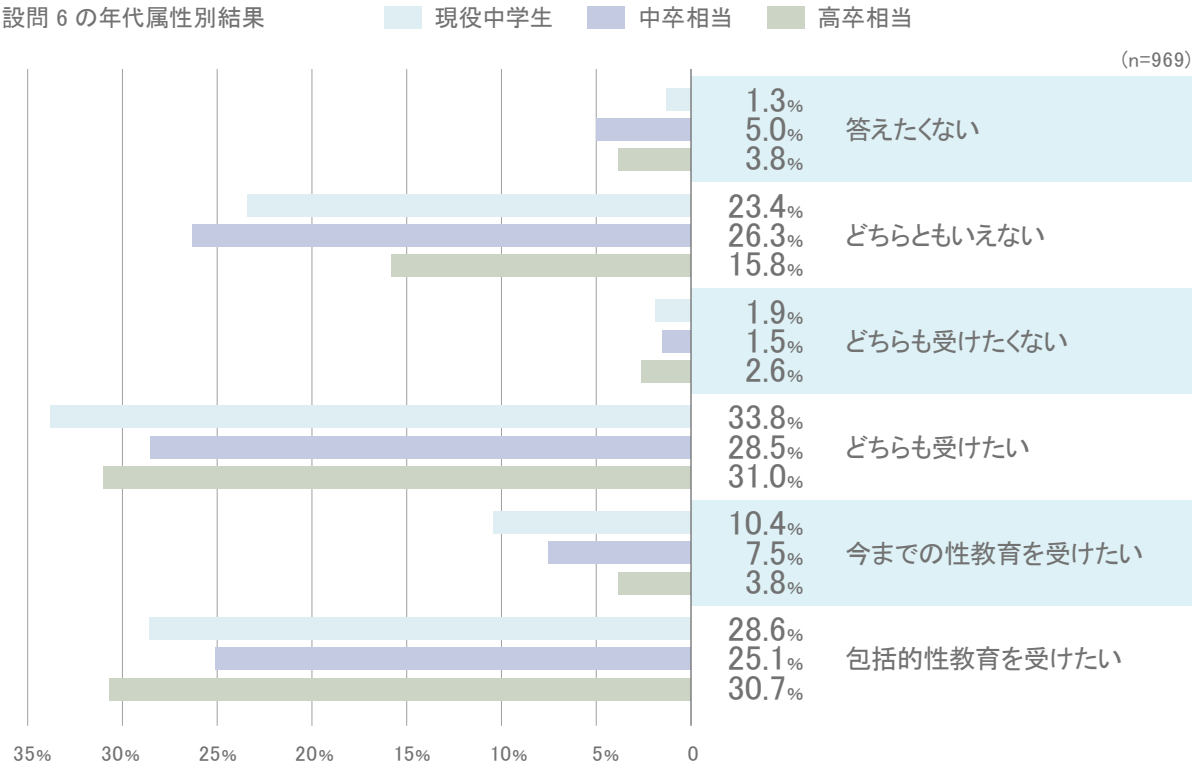
設問 6 :「包括的性教育」と今まであなたが受けてきた「性教育」のどちらを学校教育で受けたいと思いますか？

図 12 : 結果 –「包括的性教育」と今まで受けてきた「性教育」のどちらを受けたいか



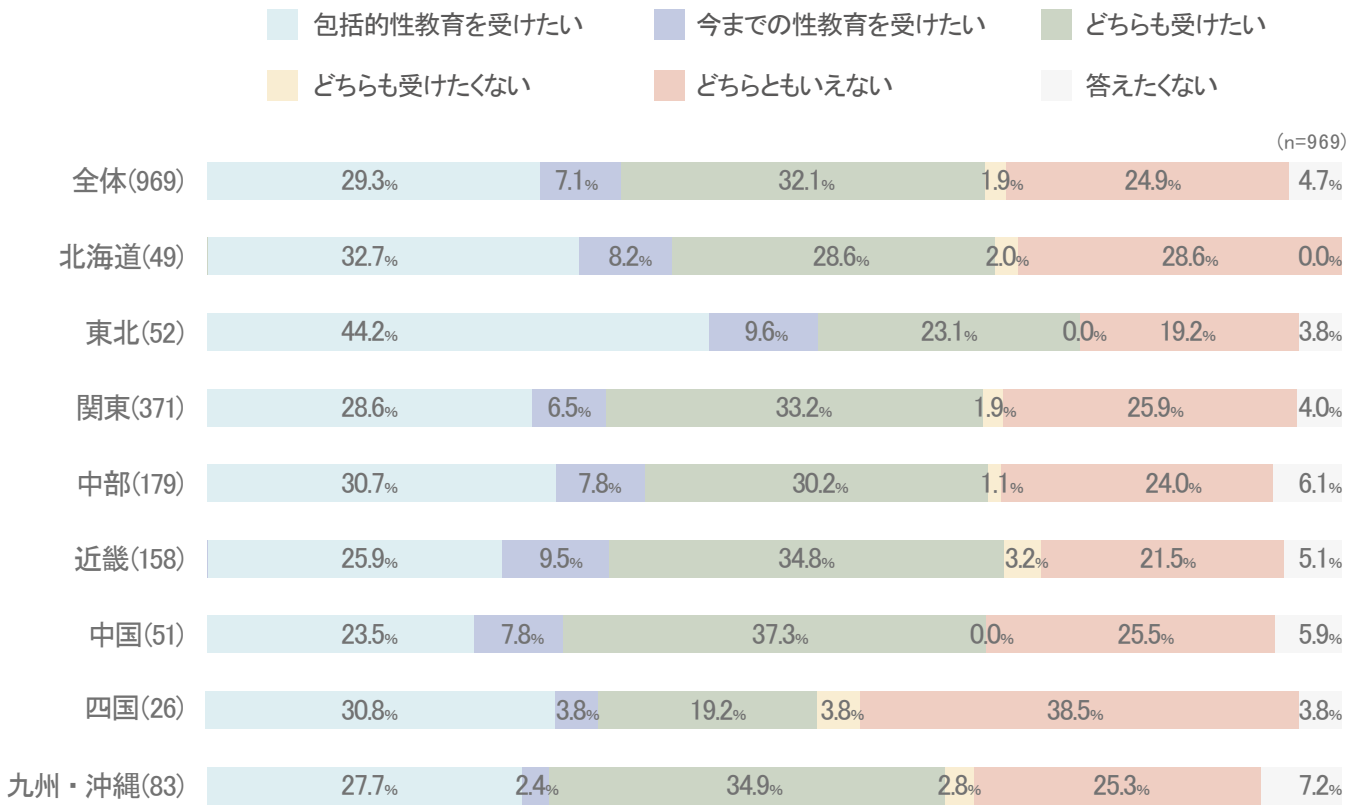
男性では包括的性教育と今までの性教育の**どちらも受けたいと回答した人が 33.3%となり最も高い**結果となったのに対し、**女性は包括的性教育を受けたいと答えた人が33.2%となり最も高かった。**

図 13　設問 6 の年代属性別結果



年代属性別にみると、「包括的性教育を受けたい」と答えた割合は高卒相当の年代で30.7%と最も高く、次いで現役中学生、中卒相当となった。僅かな差ではあるが、包括的性教育を認識している割合が大きい集団ほど包括的性教育学習に意欲的なことがわかる。「どちらも受けたい」と答えた割合は現役中学生が最も高く33.8%であるものの、「今までの性教育を受けたい」と答えた割合も10.4%で最も高い。高卒相当の年代では「今までの性教育を受けたい」と答える割合は3.8%と低い一方、「どちらともいえない」の割合も中卒相当の年代より約 10 ポイントも低く、包括的性教育を受けたいという意見がはっきりしていることが読み取れる。一方で、中卒相当の年代の包括的性教育への意欲は上と下の年代に比べると低く、「どちらともいえない」と答えた人の割合が最も高い。現役で性教育を受けている世代が従来の性教育を望んでいる傾向があるが、すでに学校教育を修了している年代層は包括的性教育の内容への学習意欲が高く、必要性を感じていることが推測される。

図 14： 設問 6 の地域別結果



地域別にみると、包括的性教育を受けたいと答えた人の割合が最も多いのは東北地方で44.2%、次いで北海道の32.7%となり、最も低いのが中国地方で23.5%、近畿地方で25.9%となったが、中国地方はどちらも受けたい人の割合が最も高く37.3%である。東北地方は、包括的性教育を知っている人の割合は少なかったが、包括的性教育がどういうものであるかが分かると、受けたいと思う人が多かったことが分かる。

設問 7：前問について、なぜそう答えましたか？（自由回答）

自由記述を設問 6 の回答ごとに分類したものを以下の表に示す。

「包括的性教育を受けたい」と答えた理由としては、**①包括的性教育の方が、内容が良いから、②今までの性教育が不十分だから、**の主に2つに分けられる。①では「包括的性教育がより実践的で現代に必要であるから」という理由のほか、自分自身の権利や人間関係、ジェンダーや性の多様性といった、「今までの性教育では扱われていないが包括的性教育では扱われる内容について学びたい」また「包括的性教育なら恥ずかしさを感じなさそう」といった理由が挙げられた。「どちらも受けたい」という理由としては、**①どちらも必要だから、②知識は多い方がいいから**という2つに大別できたが、包括的性教育が今までの性教育の内容も包含していることを理解していない回答も見受けられた。

一方、「今までの性教育を受けたい」理由としては、**①今までで十分である、**とするもののほか、**②よくわからない、**が挙げられ、包括的性教育の意味や従来との違いが理解されていないことが分かった。また、回答数としては 3 番目に多い「どちらともいえない」に対する理由としても、主に「違いが分からない」とする自由回答が最も多く、「判断しかねる」といった意見がみられた。どちらも受けたくないと答えた人の理由としては「よくわからない」「自分には関係ない」といった理由が少数寄せられた。

表 7：設問 6 に対する自由回答群（分類後）※自由解答の分類では、複数の項目で重複してカウントしている回答もある。

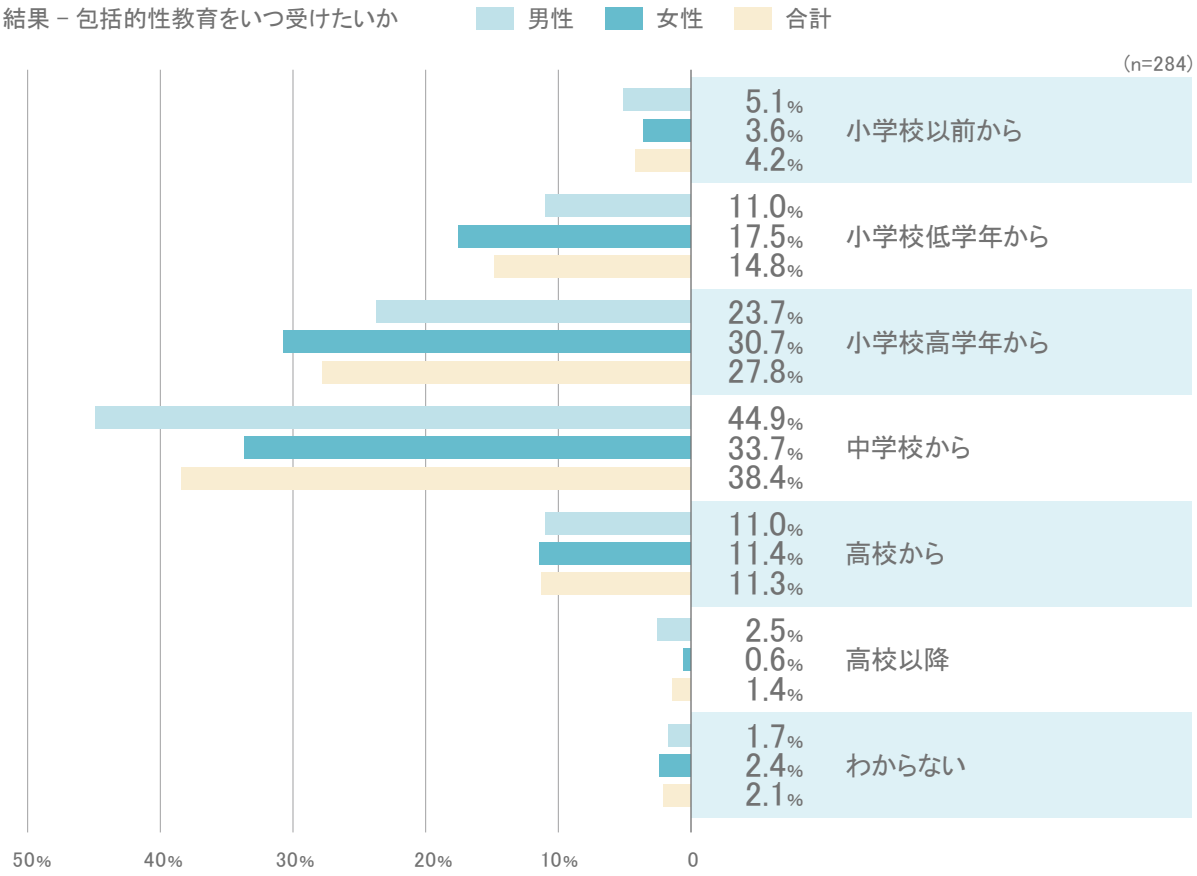
選択肢	自由記述の分類	自由記述例
包括的性教育を受けたい 284	①包括的性教育の内容が良い 82	（現代に必要、実用的） ●より実用性が高い知識だと思うから（19 歳女性・福岡） ●実践的であるように思えるから（19 歳男性・神奈川） ●現代を生きる私たちに必要なことだと思うから。（16 歳女性・京都） ●幅広く知れるから（19 歳男性・北海道） ●こちらの方が現代に必要だと思うから（18 歳女性・岐阜） ●生きるうえでより大切なことまで知れそうだから（18 歳女性・神奈川） ●今後の社会で生きていく上で必要だとおもうから（17 歳男性・東京） （ジェンダーや性の多様性について） ●ジェンダーに関する問題が増えてきているから（19 歳女性・愛知） ●ジェンダーや性の多様性を教えてもらいたかったから（18 歳女性・鹿児島） ●LGBT の理解を深めたり、人間関係を良くするために必要だから ●性自認や同意の話はとても大事だと思うから（16 歳男性・岐阜） （権利について） ●包括的性教育には自己肯定感の成長に大きく関わる部分があり、健康な心身の発達に不可欠だと感じるから。（19 歳女性・東京） ●偏った知識ではなく、多様性を重んじ、自分のことも大切にできる人が増えて欲しいから（18 歳女性・愛知） ●差別などの風潮をなくす教育もした方が良いと思うから（17 歳女性・茨城） ●直接的な性だけでなく、自分の持つ権利も学ぶ必要があると思うから（19 歳女性・長崎）

		（人間関係の築き方について） ●より人間関係を築く上で重要に思えたから（16 歳女性・東京） ●人間関係についてもしっかり学ぶことで正しい生き方ができる気がするから（19 歳男性・愛知） ●恋愛関係のトラブルが減らせると思う（19 歳女性・兵庫） ●コミュニケーションはとても大事なので（18 歳男性・福島） （身近、恥ずかしくない） ●学んでも恥ずかしくなさそう（16 歳女性・愛知） ●気まずくならないから（17 歳男性・岩手） ●より身近に感じるから（19 歳女性・新潟） ●学びやすそうだから（18 歳女性・岐阜）
	②今までの性教育が不十分 37	●今までの学校で受けてきたものは大事な部分をぼかしていて、 あまり役に立たないと感じるから（17 歳女性・千葉） ●今まで受けてきた教育は正直ほとんど役に立っていなかった。受精する過程は学んだがそれ以前（性行為）について触れていなかった。そこをもっとオープンに話し学ぶことができる環境が必要であると思ったから。（19 歳女性・茨城） ●今の性教育が十分でなく、それによって性に関して嫌な思いをする人がたくさんいると考え、包括的性教育を受けることでその問題が改善するのではないかと考えたから。（18 歳女性・山形） ●今までの性教育では内容が不十分だと思うから（16 歳男性・東京） ●今の性教育では不十分（18 歳女性・東京） ●より詳しく知りたいと思ったから。今まで受けてきた教育は意味がないと思ったから。（15 歳女性・神奈川） （今までの性教育は恥ずかしい） ●性だけを学ぶという印象がそもそも悪い、 ただ恥ずかしいとか面白おかしいで終わってしまうから。（19 歳男性・岩手） ●前項での性教育は恥ずかしさといったものを払拭出来ていなくて、聞きづらいものだったが、包括的性教育は恥ずかしさなどを感じずに受けられそうだから（16 歳男性・広島）
	③その他 10	●どんな形であれもっと性教育が拡充されるべきだと思う（18 歳男性・愛知） ●気になったから（19 歳女性・埼玉） ●幅広く学びたいから（16 歳男性・北海道） ●知らなかったから（19 歳男性・奈良）
どちらも受けたい 311	①どちらも必要・大切だから	●どちらも大切だから（16 歳男性・島根） ●どちらも学ぶ必要があると感じたから（17 歳男性・新潟） ●どちらとも重要な知識であり、学校教育で受けさせるべきだと思うから（19 歳女性・群馬） ●性教育に関すること、学びに無駄はないと思うから（18 歳女性・愛知） ●双方それぞれの利点があると思ったから（19 歳男性・大阪） （具体的例） ●日本は特に、 性に対して恥ずかしいという感情を持ちすぎていると思う。大人から教わる事もとても少ないため子供は誤った情報や知らない事柄が多いと感じる。どのような情報でも大切だと思うし、小学生の時からもっと詳しく学びたかったと思うから。（19 歳女性・愛知） ●性的なことも、性的かは関係なく、自己を守る方法、自分の意見を伝える方法、人とうまくやっていく方法も学びたい（17 歳女性・埼玉） ●性別などが多様化していくなかで知っておくべき知識だと思うし、今までの性教育も性病の感染予防のため必要だと思うから（18 歳男性・北海道）

	②知識は多い方がいいから	●知識が多い方がこの先の人生で役に立つから（16 歳男性・東京） ●知る分には役に立つ。科目に組み込む必要はないだろうけど、知る必要があるにも関わらず教えないのは問題だ、と考えるから。（16 歳男性・兵庫） ●知識が多い方がいざとなった時に助かるから（16 歳女性・大阪） ●多く知識を持っといた方が後々楽になるから（困らないから）（15 歳男性・青森）
	③その他	●価値観の多様化が進む中で、時代の流れに沿った教育が必要だと思うから（19 歳女性・愛知） ●少子化を改善するため（15 歳男性・宮城） ●日本は性に関する情報が異常に少ないから（19 歳女性・三重県） ●現代社会では必要だと感じるから（19 歳男性・栃木）
今までの性教育を受けたい 69	①今までで十分 13	●このままでも十分詳しい（19 歳男性・京都） ●今受けている教育でも十分役にたつと思う（18 歳男性・神奈川） ●今までの性教育が既に十分（17 歳女性・埼玉） ●今のことでもまだ理解しきれてないことがあるから（17 歳女性・京都） ●そんなに詳しくなくてもいいかなと思うから（16 歳男性・神奈川）
	②よくわからない 6	●よく分からないけどそう思ったから（18 歳女性・島根） ●よくわからないから（18 歳男性・東京） ●包括的がよく分からないから（16 歳男性・北海道） ●あまりその言葉が分からないから（16 歳男性・埼玉）
どちらも受けたくない 18		●よくわかんないから（15 歳女性・東京） ●どっちでもいいから（18 歳男性・兵庫） ●親が教育するべき（18 歳男性・兵庫） ●特に知りたくないし、一生一人暮らしをするから自分は知らなくてもいいと思っているから（19 歳女性・埼玉）
どちらともいえない 241	①違いが分からない	●今まで受けてきた教育と何が違うのかよくわからないから（16 歳女性・徳島） ●受けたことがない教育については何も言えない（18 歳男性・愛知） ●特に違いがはっきりとわからないから（16 歳女性・愛知） ●受けてみないとなんとも言えない（19 歳女性・滋賀） ●簡単に選ぶには難しい（16 歳男性・大阪）
	②その他	●進んで受けたいとも思わないし、逆に受けたくないというわけでも無い（性病などの知識は必須だと思うから）中途半端な気持ちから（19 歳男性・奈良） ●日本の性教育には甘いとかがいっぱいあると思うし学校それぞれに委ねてる時点で国の方針を変えるべき（17 歳男性・大阪） ●この世の中インターネットで調べればわかることがあるから（19 歳男性・鳥取） ●受けてきたものがいわゆる包括的性教育だから（18 歳男性・広島） ●もともとのままでも支障はないと思うから（19 歳男性・栃木）

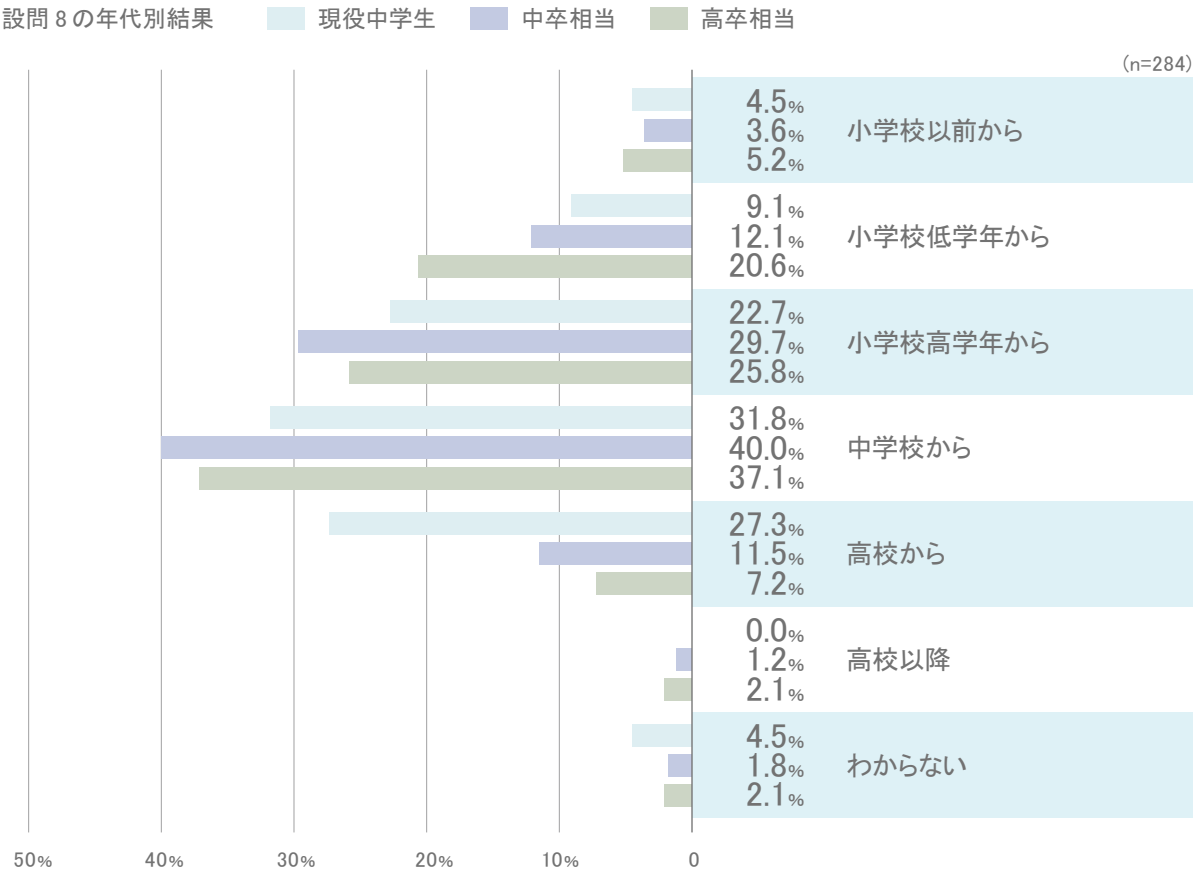
設問 8 :「包括的性教育」を受けるとしたら、いつごろ受けたいですか？

図 15 : 結果 – 包括的性教育をいつ受けたいか



男女ともに、性教育を受けたい時期で最も多いのは「中学校から」であった。**女性は「小学校高学年から」が30.7%、「小学校低学年から」が17.5%と男性よりも割合が高く、女性の方が早期からの性教育を求めていることが分かる。**これは、女性の方が体の成長が早く、月経や体の変化に対して早期から学びたいと考えられるほか、妊娠や自分の体を守ることに対してより当事者意識が強いことが考えられる。

図 16：設問 8 の年代別結果



また、年代別にみてみると、「小学校以前から」、または「小学校低学年から」始めるべきだと考えているのは高卒相当以降の年齢がそれぞれ5.2%、20.6%と最も高く、「小学校高学年から」「中学校から」と答えたのは中卒相当（高校生含む）のそれぞれ 29.7%、40.0%で、他の年代より高かった。一方、現役中学生は「高校から」と答えたのが27.3%と他の年代より高い。現在性教育を受けている世代より、性教育を終えた世代の方が早くからの教育を望んでいる一方で、中学生は自身が包括的性教育を受けるのは早いと思っている者も多いことがわかる。

考察

以上の結果から以下のことが考察できた。

現在の性教育は包括的であると言い難い

設問 1 :「これまで学校でどんな性教育を受けてきましたか？」から、全体的な傾向として、妊娠や避妊、性感染症を習った人が約80%前後と、多いことが分かった。また、人権についても習ったと答えた人が男女とも50%を超えた。一方で、「自分の体のことは自身で決められる権利があること」は40%前後、「恋人との良い人間関係の築き方」や「プライベートゾーン（水着で隠す部分）を他人に触れさせないこと」を習ったと答えた人は20%前後に留まったことから、**現在の性教育が「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」が定める項目全てを包括的に扱っているとは言い難い。**

また、見方を変えれば、7 つの項目を「学んで」いる人は40%を超えているため、包括的に学んでいる学生も一定数いるとも捉えられる。しかし、設問 4「『包括的性教育』について知っていますか？」において、「知っている」と答えた人は6.7%、「聞いたことがある」と答えた人は15.0%、「受けたことがある」と答えた人は3.1%であったのに対し、「知らない」と答えた人は74.0%にも上った。これは、現行の性教育で包括的性教育と同じ項目を扱っていたとしても、「他者を尊重しつつ、権利に基づいて健康や幸せのための選択を自分で決定できるようになり、セクシュアリティ、人権、健康的で互いに敬意を払う対人関係、価値観の尊重、暴力（性暴力含む）の回避、LGBTIQ+ の人々への無理解や差別をなくすという**包括的性教育の重要な概念を学べているユースは少ない**ことが推察される。

設問 2 :「これまで受けた性教育にどのような印象を持っていますか」で「重要である」と答えた割合は 80%と最も高いが、重要だと感じる項目には偏りがある。

- 必ず自分の人生で性を意識する場面が来ると思うから。子どもを作る時に正しい知識が必要だと思うから（18 歳女性・愛知）
- 大人になったら経験するかもしれないから（15 歳女性・神奈川）
- 正しく産むために必要だと思うから（16 歳女性・富山）
- 将来の家族計画に必要だから（17 歳男性・東京）

上記のような、「将来」性行為をする時や妊娠を望む時にのみ役立つからという回答が設問 3 で最も多く集まり（115 人）、性教育は全てのユースにとって現時点でも関係があり、重要なことであるという認識を持っている人は少なかった。性教育は本来、今の中高生が将来、性行為や妊娠をするためだけに学ぶべきものではない。

現在の学習指導要領には「性教育」や「性に関する指導」といった文言はなく、「児童・生徒が性に関する情報等を正しく選択して適切に行動できるようにする指導」[※13] としか言及されていない。しかし、各自治体の教育委員会が独自に作成している「性教育の手引き」や「性に関する指導の手引き」等においては、性教育の根幹として「人間尊重」「生命尊重」「男女平等の精神」が共通して挙げられており[※14]、それによって望ましい人間関係の構築や適切な意思決定の能力を身につけることを目的としている。**性教育を、「将来の妊娠出産について学べるから」だけでなく、人生のどの時期においても大切な人権意識、自己決定権、コミュニケーションやジェンダー平等などを学べるから重要であると感じる中高生が増えるような指導が必要である**と考えられる。

ユースは性に関する教育を受けているが、不十分と感じている

今までの性教育の印象について設問 2 で、「内容が不十分」と答えた人は男女ともに 20%を超え、設問 3 の自由回答から理由として①現在カリキュラムとして含まれている、性交渉、妊娠、避妊に関する教育内容が曖昧で、実践的な知識が得られないこと、②ジェンダーやセクシュアリティ、人権、人間関係、プライベートゾーンの内容の説明が不十分であること、③ユースには性に対して恥ずかしいという風潮があり、それが指導方法や学習環境によって強められていることの3点があげられると考察した。

①性交渉、妊娠、避妊に関する内容が曖昧で実践的な知識が得られないこと

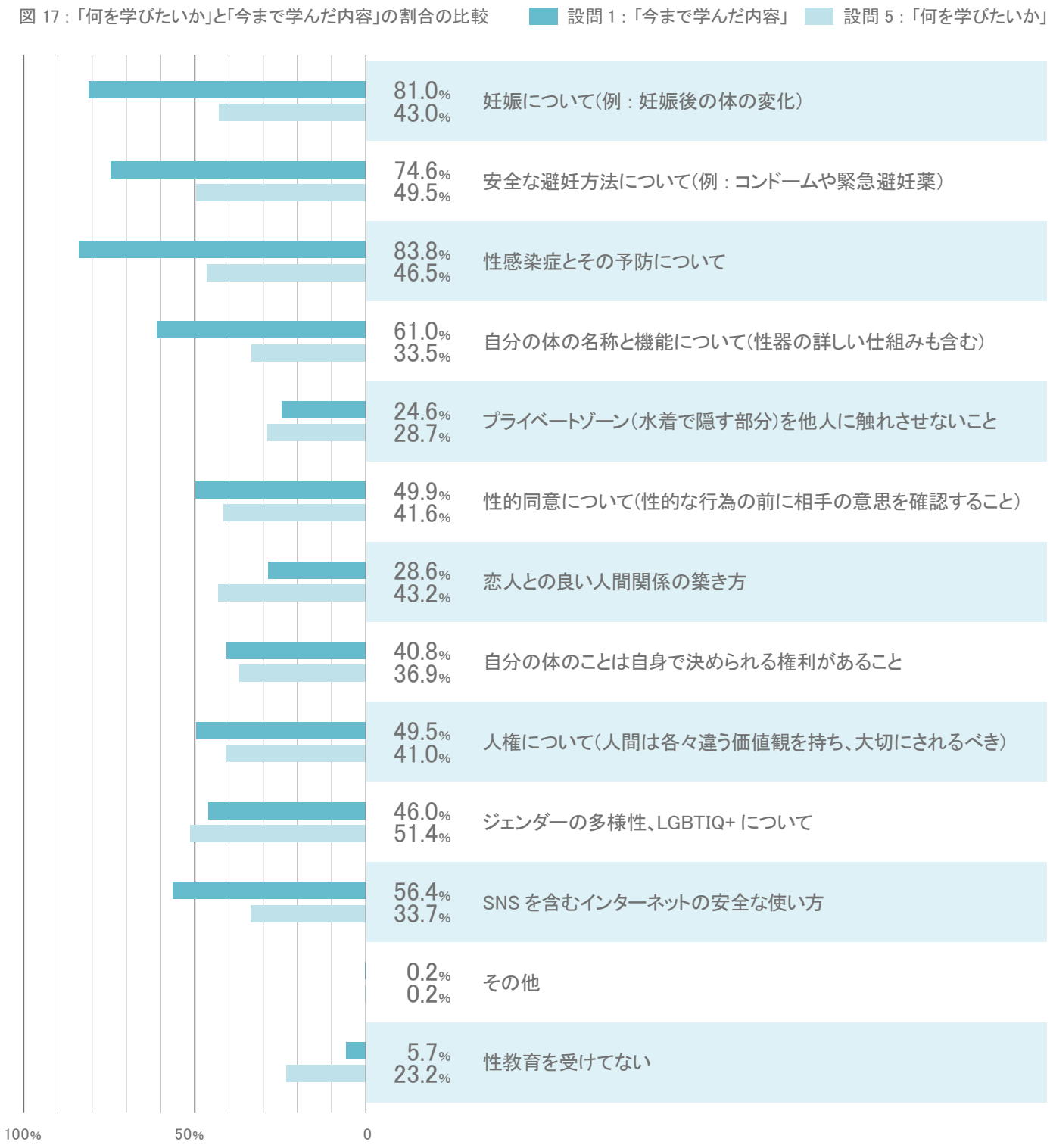
- 「はっきりと性行為というものがどういうものなのかということを教えなければ、 望まない妊娠や性感染症を防げない」（16 歳男性・北海道 ）
- 「妊娠に至るまでの過程の説明が不十分だった」(18 歳女性・千葉)
- 「名前については習ったが、詳しくは学んでいないから。(例えば、コンドームの重要さは学んだが、その使い方は学んでいないなど)」(18 歳女性・東京)
- 「詳しい避妊方法やアフターピルの使用方法などもっと知っておいたほうがいいことがたくさん有ると思う」(15 歳女性・東京)
- 「本質的なことや現実に起こり得る危険なことなど実際に役に立ちそうなことは教えてくれなかった」（19 歳女性・静岡 ）
- 「学校などの性教育では表面的な部分しか教えてくれず、本当の事は自分でインターネットなどで調べて知識を付けていくしかない」(19 歳女性・岐阜)
- 「性感染症があるという事だけで実際にどのような症状になるのか、どうしたらなってしまうのかなど具体的に教わらなかった。結局自分で調べないと自分の体の事も異性の体の事も理解出来ない」(18 歳女性・千葉)

※13：文部科学省、学習指導要領（2017 年公示）
※14：東京都教育委員会（2019）「性教育の手引き」、茨城県教育委員会（2016）「性に関する指導の手引き」、札幌市教育委員会（2016）「性に関する指導の手引」、鳥取県教育委員会（2016）「鳥取県性に関する指導の手引き」

上記のような、性交渉や妊娠、避妊に関する知識が十分に得られず、自力で調べざるを得ない状況にあるという回答が多くみられた。これは、現行の教育では、妊娠の経過に関することについては扱わないという歯止め規定が存在することが理由の1つであると考えられる。また、インターネットなどで間違った情報を得てしまい、結果として自分や他者を傷つけてしまう可能性も考えられる。**歯止め規定をなくし、学校教育で適切かつ十分な知識を与えるべき**なのではないだろうか。

②ジェンダーやセクシュアリティ、人権、人間関係、プライベートゾーンに関する説明が不十分

図 17：「何を学びたいか」と「今まで学んだ内容」の割合の比較



設問 1 と設問 5 を比べると、**「ジェンダーの多様性、LGBTIQ+ について」「恋人との良い人間関係について」「プライベートゾーンについて」の項目では、学びたいと回答した人の割合が、学んだと回答した人の割合より高い。これらの項目について、ユースの学習意欲に現行の性教育の内容が追いついていない可能性がある。**また、自由記述では、実際に上記の項目の指導を切に望んでいるユースの声が得られた。

ジェンダーの多様性

- 「LGBTQ という言葉自体の定義やその類に属する人が差別されることがあるということは教えられるが、それがいかに身近なことであるかを実感できない教育になってしまっている」(18 歳女性・東京)
- 「性自認は悩みの一つでもあるのでもっと時間を取るべき」(16 歳男性・岐阜)

人権

- 「直接的な性だけでなく、自分の持つ権利も学ぶ必要があると思う」(19 歳女性・長崎)
- 「表面的なことしか教えられず、 自分を大切にすることや具体的なことについて教えられなかった」(18 歳女性・愛知)

人間関係

- 「人間関係についてもしっかり学ぶことで正しい生き方ができる気がするから」(19 歳男性・愛知)

③性に対して恥ずかしいと感じるユースの風潮が指導方法や学習環境によって強められている

- 「あまり触れてはいけないものという風潮があり、社会に出たときに自分の性に関する行動をする際の選択の基準を得られるものではなかった」(18 歳女性)
- 「性教育の話になると男子学生がニヤニヤしたり笑ったりする雰囲気が常にあった。真面目に学ぶことが妨げられる環境に疑問を持っていたから」(19 歳女性)
- 「性に対して否定的な考えを持つ人が多く学校でも性教育に関して必要最低限の事しか教えることが出来ず、 生徒の性教育についての実感が余りないのもあるせいか授業の真剣味も他の授業と比べ低いと感じた」(17 歳男性)
- 「先生も気恥ずかしさをみせ、その単元をさらっと流しただけで終わらす」(15 歳男性)
- 「あまり触れてこられずに急に男女別の教室で保健で触れられたので隠さなければならないことという認識になった」(19 歳男性)

設問 2 の自由記述では、性に関してタブー視する社会規範や、恥ずかしいと感じる風潮があるという回答が得られた。また、教師自身の性へのネガティブな価値観や男女別に保健体育を行うという指導方法によって強められていると回答する者もいた。このように、教師の性教育への姿勢や、性に関する問題についてユースに自由に考えさせたり、話し合わせたりするのではなく、男女間であえて隠さなければならないものとして扱う指導方法や学習環境が、ユースが性を重要なテーマとして捉えられない雰囲気を生んでいる可能性がある。これによって、正しい知識を学べる機会や場を逃し、間違った知識を身に付けてしまう可能性もある。**教師への指導方法研修の充実や啓発、ユースが性教育を真剣に学ぶ意識の持てる学習環境作りが求められる**のではないだろうか。

ユースが望んでいるのは「包括的性教育」である

包括的性教育をユースが必要としているかについて記述する。設問 6 で「包括的性教育を受けたい」と答えた人は 29.3%、「どちらも受けたい」と答えた人は 32.1%と約 60%の人が包括的性教育を受けることに肯定的な意見であった。一方で、「今までの性教育を受けたい」と答えた人が 7.1%、「どちらとも言えない」と答えた人は 24.9%となり、懐疑的な意見のユースも 30%程度いた。

「今までの性教育を受けたい」と回答した人の自由回答は以下のようものがあった。

- 「包括的がよくわからないから」(16 歳男性・北海道)
- 「あまりその言葉が分からないから」 (16 歳男性・埼玉)
- 「もう一個の方(包括的性教育)はよくわからない」(17 歳女性・東京)

前述の通り、本調査の設問 5 では包括的性教育の定義を提示し回答を促したが、包括的性教育の内容の是非ではなく、そもそも言葉自体の意味やその意義を理解せずに、従来の性教育を受けたいと答えた高校生・大学生もいたことが伺える。

また、「どちらも受けたい」と答えた人の自由回答を見ると以下のようになった。

- 「どちらも大切だから」(16 歳男性・島根)
- 「双方の違いを体感したいから」(19 歳女性・大阪)
- 「どちらも学んでおいて無駄になることはないから」(19 歳男性・神奈川)

これらの回答から、「どちらも学ぶ」とは「包括的性教育を受けること」と相反するものであると理解している人が一定数いる可能性がある。

- 「価値観の多様化が進む中で、時代の流れに沿った教育が必要だと思うから」(19 歳女性・愛知)
- 「差別をなくしていくべきこれからの社会では、個々それぞれ尊重も大事だし、今までのような妊娠に関わることも学ぶ必要があるから」(19 歳男性・東京)
- 「性的なことも、性的かは関係なく、自己を守る方法、自分の意見を伝える方法、人とうまくやっていく方法も学びたい」(17 歳女性・埼玉)
- 「名前だけしか聞いたことがなく今説明を見たけどすごく大切なことが学べそうだから今までの授業の他に道徳の時間とか少し時間を設けて両方やるべきだと思う」(17 歳女性・北海道)
- 「日本は特に、性に対して恥ずかしいという感情を持ちすぎていると思う。大人から教わる事もとても少ないため子供は誤った情報や知らない事柄が多いと感じる。どのような情報でも大切だと思うし、小学生の時からもっと詳しく学びたかったと思うから」(19 歳女性・愛知)

上記回答から、「どちらも受けたい」と回答した人でも、包括的性教育の持つ目的や意義に共感し、その必要性を認識していることが分かる。よって、包括的性教育の内容や意義をより丁寧に、また未関心層にとってもわかりやすく興味が湧くように啓発することで、包括的性教育への関心やそれを求める声は更に高まるものと考えられる。

性教育に対する姿勢はジェンダーによって異なる

設問 4 から、包括的性教育を「知っている」「聞いたことがある」と答えた人の割合はどちらも女性に比べて男性の方が高く、包括的性教育を認知している男性は 4 分の 1 以上であることが分かる。しかし、設問 5 では、女性は男性に比べてほぼすべての項目について学びたいと答えた割合が高い。設問 8 で、性教育を始める時期について、「小学校低学年から」と回答した女性は 17.5%、「小学校高学年から」と回答した女性は 30.7%で、いずれも男性の 11.0%と 23.7%より 5 ポイント以上高かった。また、設問 7 で女性は「どちらも受けたい」と答えた人より「包括的性教育を受けたい」と答えた人のほうが多いが、男性も合わせると「どちらも受けたい」とした人のほうが多くなる。以上から、**包括的性教育について男性は認識しているが、女性の方が自分ごととして包括的性教育の内容を学ぶ必要性を感じ、より早期からの性教育を求めていることが推測される。**男性も射精や避妊のみならず、より広い性教育の分野に対して主体性を持って学ぶような意識づけが必要ではないだろうか。特に自由回答では、「生理や妊娠について、女子だけでなく男子もしっかり症状など勉強するべき。無知な男性が多いと思う」(17 歳女性)「女性の生理についても学校では男子は殆ど教わらないため多くの男性が生理の知識に乏しい」(19 歳男性) などと、生理や妊娠など女性のみの関心事とされがちな項目に関して、男性にも適切に教育すべきだという意見も見受けられた。

性教育に対する意識は地域によって異なる

東北地方は、設問1では各項目について学んだと回答した人が多く、設問 2 からは現行の性教育に対する満足度が高いことが考察できる。また、設問 4、5 では包括的性教育の認識は高くはないが、包括的性教育の各項目への学習意欲が高いこと、設問 6 から包括的性教育への期待が高いこと見えた。以上から、**東北地方の性教育は先進的であり、ユースの要望を満たすことができていると推測できる**のではないだろうか。東北地方の事例の1つとして、秋田県を紹介したい。

秋田県の性教育は、「性に関する科学的な知識と正しい判断力を身につけ、自己決定できる児童生徒を育成すること」を目的としており、包括的性教育の理念に即した教育が行われている。また、性に関する指導事業として、以下の 5 点が特徴としてあげられる。第一に、産婦人科医などが中学、高校などに直接出向いて、性教育講座を行っている。第二に、小学校から高校へとスムーズに性教育が連携できるように、性に関する指導者研修会を毎年行い、教育者にも積極的な啓発が行われていること。第三に、ステップアップ「性に関する指導」という取り組みを推進しており、年間計画書を立て、性に関する指導が、保健領域においてだけではなく、その他の道徳や社会科などの教科や、学校行事や学級活動などにおいても横断的になされていること。第四に、医師や教育者などによる性に関する指導推進のための委員会が置かれ、毎年一年間の事業成果や課題を協議した上で、次年度の方向性を決定し、積極的に性教育の課題改善に取り組んでいること。第五に、産婦人科医の性に関する相談窓口が置かれていること。このような**秋田県の事例に触発されて東北全体で性教育の意識が高まっていると考察できる**[※15]。

一方で、北海道は設問 6 において包括的性教育のうち「安全な避妊方法について」「性感染症とその予防について」など、7 項目で学ぶ意欲が最も低い。これは北海道の人工妊娠中絶件数に占める 20 歳未満の割合が、全国に比べて高い傾向にあることとも関連しているかもしれない[※16]。



※15：秋田県教育庁保健体育課 健康教育・食育班「本県の『性に関する指導』について」（2020 年）
※16：北海道教育委員会「性教育指導資料『学校における性教育を進めるために』」（2021）http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ktk/grp/01/10seikyouiku.pdf

提言

本調査では約30%の人が現行の性教育の内容が不十分と回答していました。以下の項目を考慮して今後の性教育をよりユースの要望に沿ったものにしてください。

PROPOSAL

現在のカリキュラムに入っている項目も曖昧にせず より深く教えてください

ユースは、現在のカリキュラムにおける性交渉や妊娠または避妊に関する項目は、実践的ではなく不十分であるため、自分で調べることでしか十分な知識を得られていないと感じています。妊娠の経過に関する歯止め規定をなくし、曖昧でない、深く実用的な知識を学校で教えることが必要です。

PROPOSAL

ユースは現在の性教育の内容に加えて、 特に以下内容を必要としています

ジェンダーの多様性、人権、人間関係、プライベートゾーンについて、現行の性教育で「今までに学んだ」と回答した人の割合より、今後「学びたい」と回答した人の割合のほうが高く、「LGBTQ という言葉自体の定義やその類に属する人が差別されることがあるということは教えられるが、それがいかに身近なことであるかを実感できない教育になってしまっている」(18 歳女性)

「直接的な性だけでなく、自分の持つ権利も学ぶ必要があると思う」(19 歳女性)

「人間関係についてもしっかり学ぶことで正しい生き方ができる気がするから」(19 歳男性)

といった意見もあり、現状のカリキュラムではユースのニーズを満たせていないと考えられます。これらの項目を、指導要領改定時に付け加えることを検討してください。

PROPOSAL

ユースが当事者意識を持てるような性教育をしてください

設問 2 の「重要である・役に立つ・身近である」という選択肢に対する有効な自由記述(195 人)のうち、一番多かったのは、「将来必要になるから」「いずれ知ることになるから」といった回答でした。これらは性教育を現時点ではなく、大人になった後のために有益というものであり、回答者は 115 人に上っています。性教育はユース世代にも直接影響がおよぶにも関わらず、現時点でユースには当事者意識が欠如しています。性教育は将来のためだけでなく、現在も必要であることを喚起し、ユースに当事者意識を持てるように教育してください。

PROPOSAL

性をよりポジティブなものとして捉えられるように教師を指導してください

約25%のユースが現行の性教育の内容が不十分、約15%が恥ずかしいと認識しています。その中には以下のようにいう人もいます。

「大切なことなのは理解しているが『恥ずかしいもの』というイメージができてしまっている」(17 歳女性)
「性教育の話になると男子学生がニヤニヤしたり笑ったりする雰囲気が常にあった。真面目に学ぶことが妨げられる環境に疑問を持っていた。」(17 歳女性)
「先生も気恥ずかしさをみせ、その単元をさらっと流しただけで終わらす」(15 歳男性)
「性に対して否定的な考えを持つ人が多く学校でも性教育に関して必要最低限の事しか教えることが出来ず、生徒の性教育についての実感が余りないのもあるせいか授業の真剣味も他の授業と比べ低いと感じた」(17 歳男性)

自身の性へのネガティブな価値観によって、教師たちがどのように性教育を実施、指導すればよいか戸惑っている可能性があります。またこうしたことが、生徒が性を重要なテーマとして捉えられない学習環境を生んでいるかもしれません。包括的で実践的な指導方法を策定し、教師がそれを学ぶことで、どの学校でも生徒が、性をポジティブに捉える学習環境で、性に関する必要十分な知識やスキルを身につけられるようにしてください。具体的には以下の点に留意してください。

PROPOSAL

指導に当たる全ての教師が専門家による研修を受けられるようにしてください

秋田県では、専門家による指導者研修を行っており、本調査でも秋田県をはじめとする東北地方のユースは他の地方と比べて性教育に対し、ポジティブな意見を持っていることがわかりました。より適切に指導するためには教師と専門家が連携し、情報交換をすることが大事です。適切な知識を身に着けることで、教師側の性教育指導への不安も軽減されると思われます。

PROPOSAL

PTA などを通して、保護者も性教育について同様に学べる場を作ってください

ユース世代の性に対する印象は学校教育のみならず、家庭における教育からも大きく影響を受けると考えられます。家庭でもより性をポジティブなものとして話し合える環境が作られることで、学校で性教育を受けるユースの姿勢もより真剣なものに変わっていくと思われます。

PROPOSAL

性教育の内容を年齢に応じて適切に身につけられるよう早期から、繰り返し学べるようにしてください

調査結果から、女性の方が男性に比べてより早期からの性教育を望んでいることがわかりました。女性がより自分ごととして性教育を学ぶ必要性を感じているからではないでしょうか。また、現役で性教育を受けている中学生や高校生と比べて、大学生や社会人、性教育を終えた世代の方が小学生以前や小学校からなど、より早期からの性教育を望んでいます。これは、自身の経験として現行の性教育の開始時期では不十分であったと感じているからだと推察されます。早期から繰り返し段階的に学ぶことによって、十分な知識を定着させる必要があります。

PROPOSAL

以上のユースの要望は包括的性教育によって満たすことができます

ユネスコによる「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」は、これらを実現する指針となるものです。
このガイダンスに則った学習指導要領の作成をお願いいたします。



参考文献

秋田県教育庁保健体育課 健康教育・食育班（2020）「本県の『性に関する指導』について」

アクロストン（2020）「思春期の性と恋愛 子どもたちの頭の中がこんなことになってるなんて！」主婦の友社

茨城県教育委員会（2016）「性に関する指導の手引き」

厚生労働省（2019）「令和元年衛生行政報告例の概況」p.9
https://www.mhlw.go.jp/toukei/saikin/hw/eisei_houkoku/19/dl/kekka6.pdf（2021 年 5 月 18 日閲覧）

札幌市教育委員会（2016）「性に関する指導の手引」

女性研究者支援ネット 大切な思春期ー「性教育講座」を担当して
https://www.akita-u.ac.jp/jyoseishien/column/008.html（2021 年 5 月 18 日閲覧）

東京都教育委員会（2019）「性教育の手引き」

鳥取県教育委員会（2016）「鳥取県性に関する指導の手引き」

北海道教育委員会（2021）「性教育指導資料『学校における性教育を進めるために』」
http://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/ktk/grp/01/10seikyouiku.pdf（2021 年 5 月 18 日閲覧）

文部科学省「小学校学習指導要領（2017 年告示）」p107
https://www.mext.go.jp/content/1413522_001.pdf（2021 年 5 月 18 日閲覧）

文部科学省（2020）「性犯罪・性暴力の対策の強化について」
https://www.mext.go.jp/a_menu/danjo/anzen/index.html（2021 年 5 月 18 日閲覧）

文部科学省「中学校学習指導要領（2017 年告示）」p129
https://www.mext.go.jp/content/1413522_002.pdf（2021 年 5 月 18 日閲覧）

ユネスコ（2020）「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」明石書店

報告書執筆者 / 作成者
勝田、栗原、末原、高島、中條、畑岡、三村

全体編集
高島

付録
【アンケート設問】

属性を問う設問：あなたの所属を教えてください(1 つだけ回答)

□ 中学生

□ 高校生・高専生

□ 大学生・専門学校生・短大生

□ 社会人

□ その他

設問 1：これまで学校でどんな性教育を受けてきましたか？当てはまるものを全て選んでください。(複数回答可)

・妊娠について(例：妊娠後の体の変化)
・安全な避妊方法について(例：コンドームや緊急避妊薬)
・性感染症とその予防について
・自分の体の名称と機能について(性器の詳しい仕組みも含む)
・プライベートゾーン(水着で隠す部分)を他人に触れさせないこと
・性的同意について(性的な行為の前に相手の意思を確認すること)
・恋人との良い人間関係の築き方
・自分の体のことは自身で決められる権利があること
・人権について(人間は各々違う価値観を持ち、大切にされるべき)
・ジェンダーの多様性、LGBTIQ+ について
・SNS を含むインターネットの安全な使い方
・その他
・性教育を受けていない
・覚えていない / 答えたくない

設問 2：これまで受けた性教育にどのような印象を持っていますか？当てはまるもの全て選んでください。
(複数回答可)

・重要である
・役に立つ
・面白い・楽しい
・身近である
・役に立たない
・楽しくない
・身近でない
・恥ずかしい
・気持ち悪い
・内容が不十分である
・性教育を受けていない
・覚えていない・答えたくない

設問 3：前問でなぜそう回答しましたか？(自由回答)

設問 4 : 「包括的性教育」について知っていますか？（1 つだけ回答）

> 「包括的性教育」とは、性に関することを、いわゆるセックス（性行為）のことだけではなく、人間関係など幅広い内容について学ぶ教育です。包括的性教育の目的は「周りの人も大切にしつつ、自分の権利を知ること。それをもとに、健康や幸せのための選択を自分で決められるようになること」です。自尊心や自信を身につけることにもつながります。セクシュアリティ、人権、お互いが幸せである対人関係、価値観の尊重、暴力（性暴力を含む）の防ぎ方、LGBTIQ+の人々への偏見や差別をなくすことも教育に含まれます。

- 知っている
- 聞いたことがある
- 受けたことがある
- 知らない
- 答えたくない

設問 5 : どんなことを学校で学びたいですか？当てはまるものを全て選んでください。（複数回答可）

- 妊娠について（例 : 妊娠後の体の変化）
- 安全な避妊方法について（例 : コンドームや緊急避妊薬）
- 性感染症とその予防について
- 自分の体の名称と機能について（性器の詳しい仕組みも含む）
- プライベートゾーン（水着で隠す部分）を他人に触れさせないこと
- 性的同意について（性的な行為の前に相手の意思を確認すること）
- 恋人との良い人間関係の築き方
- 自分の体のことは自身で決められる権利があること
- 人権について（人間は各々違う価値観を持ち、大切にされるべき）
- ジェンダーの多様性、LGBTIQ+ について
- SNS を含むインターネットの安全な使い方
- その他
- 特にない / 答えたくない

設問 6 : 「包括的性教育」と今まであなたが受けてきた「性教育」のどちらを学校教育で受けたいと思いますか？
（1 つだけ回答）

- 包括的性教育を受けたい
- 今までの性教育を受けたい
- どちらも受けたい
- どちらも受けたくない
- どちらともいえない
- 答えたくない

設問 7 : 前問でなぜそう回答しましたか？（自由回答）

設問 8 : 「包括的性教育」を受けるとしたら、いつごろ受けたいですか？（1 つだけ回答）

- 小学校以前から
- 小学校低学年から
- 小学校高学年から
- 中学校から
- 高校から
- 高校以降
- 受けなくてよい
- わからない



本報告書に関するお問い合わせ
公益財団法人プラン・インターナショナル・ジャパン　アドボカシーグループ
HP：www.plan-international.jp
Tel：03-5481-3533
Email：advocacy@plan-international.jp